

N O R C ニ ュ ー ス

社団法人 日本外洋帆走協会

新樹薫る折から会員の皆様ますますお元気に海に陸に何かとご多忙の毎日をお過しのことゝ存じます。

年間最大の八丈島レースも相当な悪コンディションのもとに行われ、なんらの支障もなくフィニッシュし、また「香港～マニラレース」に参加した「MISS SUNBIRD」 [MINERVA III] も皆様のご期待に添って、それぞれ好成績をあげて無事帰投されましたので、改選新役員一同、大きな山を越したようなホッとしたものを感じるとともに、帆走技術の目覚しい向上の賜ものと心から喜んでいる次第であります。

当協会も、ニューヨークのスローカム協会の計画になる、昭和44年3月の「太平洋単独横断レース」という、古今未曾有の大レースに協力するなど飛躍的な事業の発展に鋭意努力を続けております。

会員各位におかれましても、梅雨、台風と不安定な海象の時期を控えて、ヨット便乗の希望者も急増することと思いますが、事故防止につきましてはくれぐれも細心の注意を払われ遺憾なきを期せられますようお願いいたします。

目 次

I 本 部

- | | |
|-------------------------------|----|
| 1. 太平洋単独横断レース協力決定の経緯の概要 | 1 |
| 2. 才2回八丈島レース報告 | 3 |
| 3. 本部連絡事項 | 13 |

II 関東支部

- | | |
|----------------------------|----|
| 1. 総務委員会 | 14 |
| (a) 常任委員会 | 14 |
| 才4回(4月)定例委員会 | 14 |
| 才5回(5月)定例委員会 | 14 |
| 才6回(6月)定例委員会 | 15 |
| (b) 西伊豆三津浜ランデブーの無期延期 | 15 |
| (c) 上半期レース入賞艇表彰式 | 15 |
| 2. 安全委員会 | 16 |
| (a) 続出する「マスト」折損 | 16 |
| (b) 小網代灯柱撤去 | 17 |
| 3. 計測委員会 | 17 |
| 記事なし | |
| 4. レース委員会 | 17 |
| (a) 才1回初島レース報告 | 17 |
| (b) 才2回大島回航レース報告 | 21 |
| (c) 才18回大島レース報告 | 30 |
| (d) レース委員会レポート | 35 |
| 5. 才4回ホンコン〜マニラレース報告 | 36 |
| 6. 「神州」盗難事件報告 | 39 |

III 内海支部	ページ
1. ミネルバⅢ歓迎会報告	39
2. 1968年内海支部レース要項	40
3. 内海支部連絡事項	42
IV 東海支部	
1. 「しきなみ」乗艦実習の記	43
2. レース報告(伊勢湾レース、熊野レース)	48
3. 鬼崎ヨットハーバー協議会創立5周年	48
4. 東海支部連絡事項	49
V 京都支部	
1. レース報告(沖ノ島レース)	50
2. 京都支部連絡事項	51
VI 西内海支部	
1. 1968年奥村杯レース報告	52
VII 会員及び登録艇	
1. 会員及び登録艇の現状	53
2. 会員の異動	54
(a) 新入会員	54
(b) 住所変更	57
(c) 会員間の異動	57
(d) 会員名簿記載洩れ	58
3. 新登録艇の紹介	59

I 本 部

1. 太平洋単独横断レース協力決定の経緯の概要

4月22日(月) 1930より岡本氏の紹介によりアート、ライフアソシエーション(A.L.A)社長神彰氏、同業務部長大川弘氏と日本船舶クラブロビーにて、NORCより大儀見、飯島、高村各理事及び麻里事務局長が面談し、ニューヨーク所在の米国スローカム協会(THE SLOOCUM SOCIETY)の企画に基き、来る1969年4月開催予定の太平洋単独横断レース実施に当りフィニッシュ関係運営に協力願いたい旨の申し出があつたので、A.L.A社より提示された、同社とスローカム協会との書簡の訳文に基き意見並びに見解点について質疑を交換す。NORCとしては、一応在京理事の集合を計り、その結果により態度を明確にすることを伝えて会合を終つた。

4月24日(水) 1830より日本船舶クラブ会議室にて、召集に応じ出席した役員、委員(会長ほか計12名)の隔意のない意見によつて4月28日來朝予定のスローカム協会事務局長と大儀見専務理事が面接し、ヨットに対する国情の相違や、その他の諸問題について相互に疑念が残らぬよう理解を得ることに努め、その結果によつて協力することに一致した。

同時に今回下田において開催される八丈島レース及び前夜祭にスローカム協会事務局長とA.L.A社の関係者を招待することも決定した。

5月1日(水) 1230より下田黒船ホテルにてスローカム協会事務局長タウビン氏(Mr JEAN C TAUPIN)及びA.L.A社長神氏、同プロデューサー康芳夫氏とNORC大儀見専務理事、渡辺修一理事が面談し、太平洋単独横断レース規則及び業務分担について忌憚なき意見を交換し、スローカム協会及びNORCとしては、レースそのものの組織運営と、それ以外のPRとか、スポンサー的のものとは明確に区分されるべきであるとして、レース規則からは後者に関するものは除外し、それらはA.L.A社の分担ということで別個の文書とすることに意見の一致をみたので協議を終了し、一同八丈島レース前夜祭に出席し大いに交歓した。

5月2日(木) 1200八丈島レースのスタートに際し、スローカム協会タウビン事務局長は「ふじや丸」に便乗しスタート状況をつぶさに視察した。

5月6日(月) 1400日生劇場に於て、5月1日下田において打合せた太平洋単独横断レー

ス規則の翻訳文(A.L.Aにて作成)を中心に記者会見を実施した。この出席者はスローカム協会タウピン氏、A.L.A社長神氏、同顧問鹿島都夫氏、堀江謙一氏、NORCの大儀見飯島、高村の役員、各社記者約30名

5月7日(火) 1830より定例常任委員会の議題として大儀見専務理事より経過説明、活潑なる質疑が交された。

その主たる疑問点及び回答は

1. 日本流に云つて主催者はスローカム協会かA.L.A社か(スローカム協会である)
2. 日本からの参加申し込みの窓口はNORCか直接スローカム協会になるか(NORCが窓口となり、資格審査もNORCがやる)
3. 無線設備は強制か(無線設備はA.L.A社の手配するものとするが、スローカム協会、NORCとしてはこだわらない)
4. レース規則は英文と邦文とでどちらが基本となるか
(もちろん英文が基本と思うが、邦文を基本とした場合に起つた事態についてはNORCが責任をとらなければならない場合もあり得る。従つて正確な翻訳文のレース規則を作成する必要があり、これについてはNORCの責任において作成する。)
5. A.L.A社が投げ出す心配はないか
(それはないとはいえないがわからない。もしその時は参加者が自費でやることになり、賞品などは出なくなるかも知れないが、レースそのものの運営には支障がないだろう。)

5月20日(月) スローカム協会タウピン事務局長より礼状を兼ねて次のことが知らされて来た。

「現在サンフランシスコのスタート運営について、セント・フランシスコ、ヨットクラブとサンフランシスコ、ヨットクラブとのどちらかに決定することと、A.L.A社長より約束の手紙が来るのを待っているので、着き次第詳細を通知する」

5月22日(水) A.L.A社社長より「スローカム協会より電報にて、太平洋単独横断レースの参加艇の資格を、マルティハルは未だ安全性に疑問があるので、モノハルのみにしたいがどうか、という問合せがあつたがNORCとしての意見を聞きたい」旨の電話あり、飯島理事の意見によりNORCとしては異議なき旨をA.L.A社に回答した。

6月6日(水) スローカム協会より正式なるレース、ルール(申込用紙付)及びスローカム協会紹介の印刷物が送付された。

2. 第二回八丈島レース報告

アサヒアサヒに付

帆走委員長 大儀見 薫

第二回八丈島レースはスタートを下田に替えたことによつて、コースが面白くなり、レースとしても充実したものになつたが、コースの面白さに加えて、メイストームではないけれども、レース海域を丁度低気圧が通過するなど厳しいレースとなつた。

I スタート前の下田での設営

レースがゴールデンウィークに行なわれ、かつ下田をこの時期に使用するのも初めてであり、又将来のことも考えてレース前に現地に行き町長、海上保安部、漁業組合等関係者と会い協力をお願いし、挨拶をしてきた。

下田での設営については黒船ホテルの御主人山本一夫さん、在京の息子さんでNORC会員でもある山本政喜さんならびに黒潮観潮^丸ホテルの宮川秀利さん大変お世話になつた。ゴールデンウィークの書き入れ時に本部の部屋、前夜祭の会場など確保して頂いただけでなく、地元関係者との会談等にも御同行頂き大変親身に面倒を見てもらつた。深く感謝したい。

下田の石井基町長は、選挙戦の最中にもかかわらず心良く会つて下さり、前夜祭について町としてできるだけの協力をしたいと申出^下下さり、色々の御援助にあずかつた。

レース前に廻航してくる艇が当然あることを予想して、保安部を中心に泊地について打合せを行い、保安部の指示に基き、柿崎弁天と赤崎を結ぶ線の内側及びみさご島の東側なら良いということで帆走指示書の補足訂正事項としてレース艇に伝えた。

テnderについては呑三釣具店の主人と会つて話しを決め、レース前に足舟を貸して頂けることになり、借料はレース本部から一括して支払うことにした。

泊地については、みさご島東側に停泊した艇のところ^に地元の漁師が地引網をやるからと二度にわたり移動を要求され、他にも動いてくれといわれた艇があつた。

テnderの手配はうまく行つたが、外人の艇で通り掛りのポートに依頼した為、自前で借料を負担しなければならなかつた。

II 前夜祭

石井下田町長、古別府下田保安部長、土屋町会議長等御出席頂き盛会であつた。名古屋から才一回八丈島レース優勝の「CHITA II」の一同も参加し、丁度太平洋シングルハンドレースの打合せに來日していたスローカム協会のトービン事務局長も出席した。

又本部艇として佐島から森繁さんの廻航して下さつた「ふじやま丸」の他に津野さんの「智美」石塚さんの「CHA IKA」、金原さんの「LOTUS」等各艇のクルーも加わりにぎやかなパーティとなつた。われわれの方は少々破目はずし過ぎてしまつたが、活気のある盛大な催しとなつた。

III レース経過

スタートを下田にすれば参加艇数はかなり増えるものと思われたが、昨年度の参加艇で本年度も加つたのは昨年は廻航途中で事故のため断念した「潮風Ⅲ」と「MIGRATOR」の2艇だけとなり、「MISS SUNBIRD」、「MINERVAⅢ」が香港、マニラレースに出場のため参加できず、出場申込をした石原氏の「CONTESSA II」は参加取止めとなり、結局、「MIGRATOR」「潮風Ⅲ」「飛車角Ⅱ」「天城」「はやまる」「SEAWITCH」の6艇となる。

28～29日とゴールデンウィークの頭に行なわれた大島廻航レースは丁度低気圧2つをかかえた前線が本州南岸にあり、悪天候をついてのレースとなつたが、1日メーデーには本州がすつぱり高気圧に覆われ絶好の行楽日よりとなつてしまつた。

スタート当日、この高気圧の中心は東海上に移動し、西には東支那海上と台湾北部にそれぞれ低気圧が発生し、これを結ぶ気圧の谷が東進している状況となつた。

レース中にこの気圧の谷に遭遇することは確実となり、それが何時になり、又、どの位吹くかが大きな問題となつた。

5月2日正午スタート時は依然として絶好の行楽日よりであり、SE2～3Mの風である。低気圧の東進ペースが遅く、レース当日は終日南東の微風がつづき、夜半までに各レース艇ともようやく神津島の線に達することができた。一番東寄りに「はやまる」「潮風Ⅲ」が下田のスタートから東から次く風を求めてコースを取り先行し、「はやまる」は恩馳と神津の間を通つて行く。

中央に「天城」「飛車角Ⅱ」がコースを引き、一番下手の西寄りに「SEA WITCH」、一艇のみ後れて「MIGRATOR」の形となる。「MIGRATOR」は上りの微風では全く走らず、初めから大きく差をつけられてしまう。

2日、5月3日も依然として高気圧の尾つぼが残り、午前中は前日同様、SEの微風である。しかし、東寄り、高気圧に近い所程風が弱かつたと思われ、「はやまる」「潮風Ⅲ」が神津の南でナギに悩まされていた頃に西寄りの艇は風を掴んで先行する形になる。

難波の西に到達した大体の時間と難波からの距離を各艇の航跡図から割り出して見ると別表のようになるが、西寄り、つまり低気圧に近い艇程良く走つたことがはつきりしている。

3日の夕方から風雨は次第に強くなり、午後9時には南方海上の低気圧は潮岬の南に達し、日本海側のは弱まりながら南側低気圧に接近し、同流しそうな形になる。この時の中心気圧は1002ミリパー。

各艇とも、2100頃から夜半過ぎ0100頃までこの時化に見舞われた。風速は14~15M位、激しい雨で視界は100M程もなく、各艇難航する。DFが唯一の頼りなのだが、八丈の航空無線局の方は各艇とも捕捉できず、海上無線局の方も「はやまる」等は遂に捉えることができなかったが、これは光電社発行のDF用配置図に頼つた為にこれに誤つて記るされている周波数で探したからである。正しい周波数は319KC、誤つて記入されているのは390KCである。昨年「さがみ」が同じ苦勞をした点だが、うっかりしたでは済まされない問題だ。

ナビゲーションで苦勞したこともあつて「天城」以外の各艇は縮帆して流すか、ヒープツターするかした。この時化の中の帆走状況でレースの勝負は決まり、「天城」はトップで八丈を廻航する。廻航時間は4日の朝、05時40分、二番手の「飛車角Ⅱ」を2時間近く離している。

「潮風Ⅲ」は一番東寄りにコースを引き、八丈と八丈小島の間をねらつたのだが、時化の間ヒープツターなどしている内に潮に流され八丈島の東側に持つて行かれ、4日の朝、廻航して帰る「飛車角Ⅱ」を発見し、タイムリミット迄に廻航して完走する自信がなく、時化を乗り切り且つ八丈の北端から1湊足らずの所に達しながらここで棄権する。

3日目、5月4日は早朝迄には低気圧も前線も八丈付近を通過してしまつたようであり、終日南西の風が10M前後吹き、行きのスローペースと変つて、八丈からフィニッシュ迄は各艇

とも快調に走らせた。

「MIGRATOR」は微風での上りで八丈に取着くまでに決定的に後れてしまい、時化の時も未だ^三難波の南10哩程度の所に在つて、1000ミリバールを記録し、先行した艇よりは揉まれたらしい。廻航はトップの「天城」より14時間以上後れ、遂にタイムリミットにわづかに間に間わず、5日の18時13分46秒にゴールした。

結局、2日、3日の微風の上りで「天城」と「飛車角Ⅱ」が稼ぎ、3日夜の時化の帆走で「天城」が優勝を決定的にし、「はやまる」は2日、3日の東寄りコースの遅れを回復できず結局3位に終つた。「MIGRATOR」が後れたのはあの風では止むを得ず、「潮風Ⅲ」は黒潮の影響を過少評価してか、東にコースを取り過ぎて廻航できず、「SEAWITCH」は最小艇ながら健闘し、八丈からの帰りの所要時間は「飛車角Ⅱ」と同じで、良く頑張つた。

黒潮は中心が八丈の少し南を大きく北に彎曲しながら北東に流れていたのだが、八丈付近でも潮はかなり強く、「潮風Ⅲ」がこれにやられた他、「はやまる」も3ノット以上の流れを記録している。

荒天帆走のレースとしては三年前の大島レースとともに特筆すべきレースとなつたが、全艇この時化を乗り切り、全くトラブルがなかつたことは今後のために大きな実績を残したことになる。

なお、レース期間中の八丈、三宅、大島の各測候所の風速、風向のデータは別表の通り。この間の八丈測候所での瞬間最大風速は3日の23時54分、SSW、23.7Mであり、平均最大風速は同じく3日の20時30分、E、11.5Mだつた。東京管区气象台の話では測候所が島の中央にあるため、海上ではこれより若干強い風だつたらうとのことである。

Ⅳ 城ヶ島レース運営本部日誌

1. 5月3日正午頃、横須賀保安部岡田氏よりSO S 遭難発信符号につきレース本部宛問い合わせあり。
 2. 1500頃、「利根」三崎廻航レース本部を灯台博物館へおく。
 3. 2015、三管本部より、遭難発信符号につき問い合わせあり。明朝、NORC本部より調査の上、報告することとする。
- 帆走指示書、13、B)の「NORC登録番号がコール信号となる」と示してあつたのは間

違いであつた。

- 尙「しきね」よりの連絡では、夕刻迄、八丈、三宅間にレース艇を見ず、八丈の風速 13 m/s 。
4. 2230、三管本部より連絡、2125、八丈測候所より風雨波浪注意報発令低気圧は発達しながら八丈島附近を通過する見込、東後雨の風となる。雨量 $50 \sim 70 \text{ mm}$ の見込。
 5. 5月4日 0500頃雨は止む。
 6. 0725、三管本部より電話あり、乗権等の報告はないかとの問い合わせあり、尙昨夜八丈では 20 m/s 位吹いたとのことであつた。
 7. 保安庁より1212、飛行機によりレース艇確認、但しセールナンバー338 (マイグレーター) を除く全艇、八丈島の南 $150^\circ 5 \text{ M}$ ~ 北 $10^\circ 15 \text{ M}$ の間に北上中を確認との事。
 8. 以上の報告と現在の風向、風速により一番早い艇でも、フィニッシュは6月5日0300以後と推定。
 9. 5月5日、0300頃ヨットらしき緑灯発見、発光信号により「天城」であることを確認
 10. 0411 天城フィニッシュ、後続2灯発見
 11. 0624、飛車角II フィニッシュ
 12. 0728、はやまる フィニッシュ
 13. 1054、Sea Witch フィニッシュ
- 以後しばしばヨットを見るも、すべてレース艇以外。
14. 尙「潮風III」はレース旗を下し、機走で帰着。
八丈島手前で乗権したとの報告あり。
 15. タイムリミット (1800) 近くなるも「マイグレーター」を見ず、横須賀米海軍将校クラブより問い合わせの電話あり、日没前に一応厚木基地より、飛行機を出す手配をしたとの連絡あり。
 16. タイムリミット直前マイグレーター発見、直ちに米海軍将校クラブへ連絡する。
1813、フィニッシュ、残念乍らタイムリミット后であつた。
 17. 保安庁、その他各艇へ連絡後レース本部を撤収。

別表

レース途中経過の分析

		I		II			III	
TCF	離波270°の線に到達の時間	下田一離波所要時間	離波から距離(づれも西)	石積の鼻270°に到達の時間	離波一石積所要時間	FINISH	石積一FINISH所要時間	
MIGRATOR	.807	3日18時00分	30時00分	6.0 哩	?	—	5.18.13	—
潮風 III	.781	3・14. 50	26. 50	1.7	—	—	5.18.13	—
飛車角 II	.762	3・10. 20	22. 20	15.5	4.07.30	2 1. 10	5.06.24	2 2.5 4
天城	.753	3・11. 30	23. 30	11.5	4.05.40	1 8. 10	5.04.11	2 2.3 1
はやまる	.751	3・12. 20	24. 20	9.5	4.09.10	2 0. 50	5.07.28	2 2.1 8
SEAWITCH	.739	3・12. 20	24. 20	18.5	4.12.00	2 3. 40	5.10.54	2 2.5 4

(注) 才I段階 東寄りの艇程遅れる

才II段階 時化の帆走、「天城」が抜群

才III段階 「はやまる」詰めるが及ばず。「SEAWITCH」健斗

別表：各測候所の風速、風向

		八 丈 島	三 宅 島	大 島
5/2	1 2.0 0	E 3.0M/SEC		S 8.0
	1 5.0 0	—	SE 3.0	—
	1 8.0 0	S 1.0		NNW 3.0
	2 1.0 0	S 1.0		E 1.0
5/3	0 3.0 0	SSW 5.0		S 3.0
	0 6.0 0	S 1.0		WNW 1.0
	0 9.0 0	SE 3.0	ENE 3.0	W 不明
	1 2.0 0	E 5.0		NW 3.0
	1 5.0 0	E 5.0		EE 5.0
	1 8.0 0	ENE 10.0		ESE 8.0
	2 1.0 0	ENE 8.0	ESE 8.0	ESE 10.0
5/4	0 3.0 0	SW 8.0		WSW 10.0
	0 6.0 0	SSW 5.0		NW 1.0
	0 9.0 0	WSW 8.0	SW 3.0	SW 8.0
	1 2.0 0	SSW 8.0		SSW 8.0
	1 5.0 0	W 5.0	SSW 5.0	SW 10.0
	1 8.0 0	W 5.0		SSW 8.0
5/5	0 3.0 0	W 5.0		SW 10.0
	0 6.0 0	W 8.0		S 8.0
	0 9.0 0	W 5.0	SSW 8.0	SSW 8.0
	1 2.0 0	WSW 5.0		SSW 10.0
	1 5.0 0	WSW 8.0	WSW 8.0	SSW 10.0
	1 8.0 0	SW 5.0		SSW 10.0
	2 1.0 0	SW 5.0	SW 8.0	SSW 8.0

V 問題点等

1. 海上保安部には毎度のことながら大変世話になつた。巡視艇も「げんかい」「しきね」がレース海域に出動し、4日には飛行機で各艇の確認をして頂いた。
2. 下田のスタートは大変レースを充実させ、今後ともこのコースでやつた方が良いでしょう。但し下田停泊については更に手を打つ必要がある。
3. 荒天時のDF、デッドレコによるナビゲーションは更に研究する必要がある。
4. SOS自動発信器のコールサインについて、帆走委員会ではつきり掌握せず、混乱を招き、城ヶ島フィニッシュ担当委員その他に迷惑を掛けたのは失敗だつた。必ずコールサインを各艇が届出る方式を採用しなければならない。
5. 帆走委員長は今回のように乗艇せず、陸上に残つてレース運営態勢をすつきりさせた方が良いでしょう。
6. 「MIGRATOR」には特別に「敢斗賞」を出すことにしたが、タイムリミットを更に延ばすか、「日没まで」などとする方法を考えた方が良いでしょう。

第 2 回 八 丈 島 レ ー ス 成 績 表

N O R C

着順	クラス	セー ル No.	艇 名	T・C・F	オ ー ナ ー 艇 長	八丈石積鼻灯 台 回 航 時 間	到着時間 (P.T.)		所要時間 (S.T.)		修正時間 (C.T.)		順 位	
							日 時 分	日 時 分 秒	時 分	時 分 秒	時 分	時 分 秒	ク ラ ス	総 合
1	Ⅲ	615	天 城	754	渡 辺 修 治	日 時 分 4.05.40	日 時 分 秒 5.04.11.00	時 分 秒 6.4.11.00	時 分 秒 4.8.23.39	①	Ⅰ			
2	々	610	飛 車 角 Ⅱ	762	名 和 幸 夫	々 日 時 分 07.30	々 日 時 分 秒 06.24.13	々 時 分 秒 6.6.24.13	々 時 分 秒 5.0.35.58	②	Ⅱ			
3	々	614	は や ま る	751	立 松 泰 雄	々 日 時 分 09.10	々 日 時 分 秒 07.28.53	々 時 分 秒 6.7.28.53	々 時 分 秒 5.0.40.43	Ⅲ	Ⅲ			
4	々	341	S E A W I T C H	739	E・T・ W I T H E R B Y	々 日 時 分 12.00	々 日 時 分 秒 10.54.24	々 時 分 秒 7.0.54.24	々 時 分 秒 5.2.24.00	Ⅳ	Ⅳ			
	Ⅱ	338	M I G R A T O R	807	R・B E R K E L Y	—	5.18.13.46	7.8.13.46	6.3.07.52	—	—			
	々	358	潮 風 Ⅲ	781	竹 下 政 彦	—	5.06.59.07	— (R I T I R E D)	—	—	—			

総合 ～ 1位 天 城 クラス別(Ⅲ) ～ 1位 天 城 (43.5.10)

2位 飛車角Ⅱ 2位 飛車角Ⅱ

3位 はやまる フアストホーム賞 ～ 天 城

第 2 回 八 丈 島 レ ー ス 会 計 報 告

収 入

参加申込料 5 隻	1 0,0 0 0
遅延申込料 2 隻	8,0 0 0
参加料 (会 員) 3 3 名	3 3,0 0 0
〃 (一 般) 4 名	1 2,0 0 0
歓送会徴収会費 7 2 名	3 6,0 0 0
祝儀代 (柿崎区長)	1,0 0 0
合 計	1 0 0,0 0 0

支 出

レース本部運営費 (宿泊費、食費、交通費)	4 1,8 1 1
才 1 回艇長会議借室料	2,7 0 0
通船借料 (呑三釣具店)	5,0 0 0
印刷費 (帆走指示書、表紙印刷共)	2,5 8 0
特設電話及び電話料 (保証金込)	1 5,0 9 5
参加記念品代	3,5 0 0
謝礼品代	6,9 0 0
歓送会経費	3 3,0 0 0
懇親会経費	4 6,6 4 1
雑 費	2,3 0 0
合 計	1 5 9,5 2 7

差引不足額 5 9,5 2 7

(本部)

読字大まぐ

3. 本部連絡事項

(a) 本部事務局員職名変更

いままで本部事務局責任者の職名を主事という名称にしておりましたが5月1日より事務局長に変更いたしました。

(b) ヨット泊地案内、会員名簿の配布

NORCニュース№15.16をもちましてお知らせ済ですが、連絡等不十分にて未配布の方がありましたらご面倒でも本部迄お申出願います。

(c) 年会費の納入

本年度(43年)年会費未払の方々は至急お払込み願います。金額は下記のとおりです。

納金先

現金～NORC 本部

振込～{ 住友銀行虎の門支店 } 普通口座
日本勧業銀行京橋支店

口座名～日本外洋帆走協会

支部 会 員	関 東		内 海		東 海		京 都		西 内 海	
特 別	6,500		5,000		6,000		6,000		6,000	3,500
普 通	3,500		1,000		3,000		3,000		3,000	1,500
候 補 生 (登録料)	1,500		—		1,000		1,000		1,000	—

(註) 関東支部は「油壺記念碑積立金」 ¥500加算額計上

(a) ヨット盗難

別記関東支部より報告がありましたように、最近ヨットの設備、備品のみならずヨットそのものの盗難さへ発生する世相になつて参りました。会員の皆様も管理について十分のご注意をお願いします。

(e) 無線従事者養成講習会開催について

神奈川県ヨット無線協会では来る8月上旬に下記により無線従事者養成講習会を開催する予

定であり追つて詳細はオーナー各位に通知されると思います。

場 所 三浦市城ヶ島養老子 県沿岸漁民研修所

資 格 特殊無線技士(甲)無線電話

費 用 1500円~2500円

宿 泊 無料宿泊(食事別)ができる。

II 関東支部

1. 総務委員会

改字大きく

(a) 常任委員会

才4回(4月定例) 昭和43.4.2(火) 18:30 出席者17名

議 題

- (1) 高村(信)常務理事就任挨拶
- (2) 1968年版計測規則の刊行について(渡辺委員長説明)
- (3) 才2回大島回航レース(4/28~29)の開催について
- (4) 才2回八丈島レース(5/2~5)の開催について
- (5) その他

才5回(5月定例) 昭和43.5.7(火) 18:30 出席者23名

議 題

- (1) レース経過報告
 - a) 才1回初島レース
 - b) 才2回大島回航レース
 - c) 才2回八丈島レース
- (2) 才18回大島レース(5/25~26)の開催について
- (3) 太平洋単独横断レースの協力依頼について
- (4) その他
 - a) 香港~マニラレース終了について
 - b) 西伊豆三津浜ランデブーの進展状況について
 - c) 横浜ヨットハーバーの進展状況について
 - d) その他

才6回(6月定例) 昭和43.6.4(火) 18:30 出席者26名

議題

- (1) 才18回大島レース(5/25~26)の経過報告
- (2) 才2回初島レース(6/29~30)の開催について
- (3) その他
 - a) 油壺記念碑積立金の使用方法について
 - b) その他

(b) 西伊豆三津浜ランデブー無期延期 *法字大まぐ*

前号のNORCニュース(41頁参照)にてお知らせいたしました三津浜ランデブーは伊豆箱根鉄道㈱より天然水族館の防波工事の都合により無期延期されたい旨申し出てありましたが、已むを得ざるものと思われまので、無期延期することといたしましたのでお知らせします。

(c) NORCカーニバル(仮称)の開催 *法字大まぐ*

例年実施される上半期入賞艇表彰式を兼ねて、今年は、新たにオープンした小網代シーボニアヨットクラブに於て、本部の協力を得て、NORCカーニバル(仮称)と銘りつて、下記により盛大に開催いたしますので、ご家族ご同伴全艇ご参加願います。

期日 8月3日(土)夜 前夜祭

キャンプファイアー

花火大会 その他

8月4日(日)0900集合

0930諸競技その他

(たゞいま研究中)

1200表彰式

式後海上パレード(各艇参加)

そのまゝ開散

なお名案がありましたら名和委員、落合委員までお知らせ下さい。

2. 安全委員会

→ 浪字を大きく.

(a) 続出する「マスト」折損

最近のトラブルには「だぼはぜⅡ世」と「チルデ」があるが、オーナー筋から聴いた所では次のような経緯であつた。

(A) 「だぼはぜⅡ世」の場合

前回にスプレツダーを折損して、その瞬間にマストが彎曲した。その直後、スプレツダーを修理しマストの異状の有無も点検して再就航した。ところが今回の折損は、前回の彎曲と同じ場所が同じ方向に折れ、而もリギン健在のまま突如の折損を起こした。おそらくこれは、前回の彎曲の時に引張り側（彎曲の外側）は健在だつたとしても、圧縮側（彎曲の内側）に微細なシワが出来、そのシワ部分のセンチが腰折れの状態になつていたのでないかと推測される。今後、このようなケースの時は圧縮側の微細なシワに注意されたい。

“だぼはぜⅡ” マスト折損視認報告書

才2回大島回航レースに於ける“だぼはぜⅡ” マスト折損後の安全確認状況は、昭和43年4月29日大島千波崎沖約1.5浬東南東の風、風力5～6

06・15頃大島南岸差木地に向けヘッドング約60°にて、クローズホールドで接近中右舷斜め後方（SW）約0.8～1浬にマストを折損し漂流中と思われる“だぼはぜⅡ”を発見たゞちに反転現場に向う。約10分前後にて現場に到着、周囲を一転しながら状況を聞く。艇体、乗員に損傷なく、エンジンにて自力航行可能にて、どこにも寄港せず艇内の整理が終り才直接油壺に帰港するむね土肥艇長より報告を受ける。

このむね本部に連絡を依頼され、これを諒承たゞちにレースコースに復帰した。

以上報告致します。

昭和43年5月9日

はやまる艇長 武市 俊

（社）日本外洋帆走協会

レース委員会 御 中

(B) 「チルデ」の場合

マスト折損を2回続けて起こし、2回目の時にはじめて原設計者に問題が持ち込まれた。この艇の原設計はジャンパーストラット・リグだったが、建造頭初にマストヘッド・リグに変更されたのであるが、此の変更は造船所の手落ちで原設計者が検討するのを省略され、復原力などの重要要素を加味することが省略されていたのが原因と思われる。

最近のレースの激化は、点検技術、設計技術、製造技術などの進歩をもたらしたのであるが、次に、ギリギリの重量軽減が計られつつあるので、オーナー諸氏にはますます技術的な専門知識を要することとなる。

(b) 小網代崎灯柱の撤去 *消字+建造*

油壺マリンパークの開設に伴いましてその地域内に設置してありました小網代崎灯柱は去る4月23日に撤去いたし、この旨才三管区海上保安本部水路部長殿宛に文書提出いたしました。

3. 計測委員会 *消字大々*

記事なし

4. レース委員会 *消字大々*

(a) 1968年才1回初島レース(4.6~7)

レース帆走委員長 金原良一

A) レース報告

1) スタート 4/6 22:00 IVクラス以下
22:30 IIIクラス以上

2) コース 小網代→初島→大磯ブイ→小網代
(約52マイル)

3) 出走艇 15隻 (参加人員 69名)

4) 天候 スタート時(晴) NE 5~6M
7日 (晴)

5) レース経過

前日来の雨も止みスタート当日は絶好のレース日好りとなり全レース艇無事にスタートしました。スタート時はNEの風5~6Mで飯島艇長のSALMON IIはスタートす

るやいなヤスピンを揚げる張り切りようでこの調子でいくと各艇とも白熱したレース展開が予想されました。この風は真夜中一時無くなりはしましたが明け方まで続き明け方天城を先頭にシレナ、シャークX、飛車角Ⅱの順で初島をまわり各艇はそれぞれ視界の中にあつた様子です。しかし各艇が初島をまわつて北側に来た頃に風が無くなりはじめその上1ノット近い北流の為大磯のブイに行くには困難となり昼近くにはリタイアする艇が続出しました。昼過ぎにはS Eの風が吹き初め三時頃にはS~S Eの風が吹き続けた。大磯のブイを廻つたのは飛車角Ⅱ、天城、はやまる、シレナの順であつた。Ⅲクラスの艇は1時過ぎに大磯のブイを廻つたのにⅣクラスのシレナは3時を過ぎてしまつた。コミティポートロータスではタイムリミットの6時を気にしながら夕闇せまる相模湾にファーストホーム艇の影を求めて望遠鏡を走らせた。4時過ぎにファーストホーム艇飛車角Ⅱがフィニッシュ続いて天城が入りはやまと続いた。ロータスでは最後まで頑張つていると思われるシレナを6時まで待つた。しかしシレナはフィニッシュラインまで6マイルの地点で6時を迎えⅣクラスの完走はとうとう果されなかつた。レース本部はタイムリミットの6時過ぎから丸八旅館に陣どつてまだ消息のない艇の連絡を待つた。エンジンの調子のよくないJ U N E B R I D Eの件が一番心配されたが7時20分過ぎ土井艇長の桜工に曳航されて無事帰つてきました。桜工の諸君には感謝します。8時過ぎ八丈が入港し全艇無事な事を海上保安庁に報告して今年度才一回初島レースを無事に終了しました。

レース中艇長会議でオリンパスⅢとロータスで無線を使用了承を得てあるので二時間毎に連絡をとりレースの進行状態を把握することが出来ました。去年の八丈島レースの時の大儀見レース委員長がレース艇の把握について無線の連絡をとるなどの方法を具体的に考える必要があると述べられていますが今回たまたまオリンパスⅢとロータスでうまくいきましたが小笠原復帰の際開催されるであろう小笠原レースなど各艇の安全の為に無線について一考の余地があるかと思ひます。

今回のレースで一番懸念された大磯のブイの廻航の件は視界がよかつたせいもあります。各艇のベアリングの技術を競う意味においても成功であつたと思ひます。

今年才1回のレースとしては参加艇が少なく今後のレースにおいて多数の参加を希望し

ます。

1968年第1回初島レース成績

I 潮風Ⅲ				D N S
Ⅲ 稲龍				D N S
CONTESSAⅡ				D N S
飛車角Ⅱ	17:30:12	13:20:15		①
SALMONⅡ				D N F
天城	17:46:49	13:23:19		②
はやまる	18:15:50	13:42:58		③
さがみⅡ				D N S
TILDE				D N S
Ⅳ 八丈				D N F
CYGNUS				D N F
潮				D N F
もさⅢ				D N S
SIRENA				D N F
SHARKX				D N F
明日香				D N F
OLYMPUSⅢ				D N F
桜工				D N F
Ⅴ 朝風				D N F
JUNE BRIDE				D N F
フアーストホーム		飛車角Ⅱ		
総合	1位	飛車角Ⅱ		
	2位	天城		
	3位	はやまる		

クラス別Ⅲ	1位	飛車角Ⅱ
	2位	天 城
◇	Ⅳ	完走艇なし

1968年第1回初島レース会計報告

レース帆走委員長 金 原 良 一

収入の部

参加申込料	20隻	40,000
参加料(会員)	46名	46,000
◇ (一般)	8名	24,000
計		110,000

支出の部

レース本部運営費(宿泊費、食費、交通費)	27,870
才1回艇長会議借室料	2,700
通船借料	3,000
印刷費(帆走指示書、出艇表等)	1,500
特設電話及び通話料(概略)	5,000
備品(回転灯フラッシュ、ライフラフト積層乾電池)	4,500
消耗品費(文具、乾電池等)	1,480
雑 費	1,920
計	47,970

差 引 残 額	<u>62,030</u>
---------	---------------

14字小ま過ぎ

(b) 舟2回大島回航レース報告書

大島回航レースは大島反時計まわり68漕のレースで昨年の舟1回にひきつづき、今年の舟2回は4月28日10:00スタートでおこなわれた。

[気象状況]

4月28日：北海道東方海上および四国南海上に低気圧が停滞し、これを結ぶ前線が本州南岸沿いにあり、相模湾方面は曇時々雨で、霧が発生し視界が悪かった。

4月29日：低気圧が次舟に東進したため、相模湾方面では早朝はげしい風雨に伴なって前線が通過した。前線通過後は雨があがり視界良好となった。

[レース状況その他]

4月28日 08:50 小網代湾口指定の位置のマークボートを設定 雨 N 2 m / Sec

出走艇は申込14艇中4艇が辞退したため10艇であつた。

10:00 降りやまぬ雨の中を各艇静かなスタート10分後霧中に見えなくなつた。

10:30 海上保安部にスタートの連絡

11:00 オリンパスの落合艇長から無線連絡舟1信

「N 3 m 波高0 コース210° 視界約1M 前方より、はやまる飛車角Ⅱ、さがみⅡ、シレナ、サンゴ、オリンパスⅢ、アオレレⅡの順」

以後1~2時間毎に連絡があり帆走委員会としてレース概況を把握する上で非常に役立つた。しかしオリンパスⅢからの連絡も無線機の故障で22:00以降途だえた。

18:00 フィニッシュライン設定完了

20:00 オリンパスⅢからの連絡舟10信

「風早崎NWIMまさに大島にさしかかるとしている。風なく潮の流れに操船困難、他艇の行動は不明」

22:30 アオレレⅡの神服艇長よりTEL「19:15風早崎N10Mで、無風のため棄権、油壺に帰港、なお前方にはサンゴ、オリンパスⅢ、サルモンⅡ、ダボハゼⅡがレース中であつた」微風中で潮と戦いつつあ

る各艇の苦勞が察せられた。レース後の航跡図によると、風早崎を大きく(10M)迂回したグループ(飛車角Ⅱ はやまる)と小さく(5M以内)回つたグループ(その他の艇)に分れており結果としては前者のグループが大きく遅れることとなり、龍王崎S通過順位では①さがみⅡ(05:20) ②サルモンⅡ(05:25) ③シレナ(05:35) ④明日香(06:05) ⑤サンゴ(06:30) ⑥オリンパスⅢ(06:50) ⑦はやまる(07:18) ⑧飛車角Ⅱ(08:00)であつた。

4月29日

04:00前後に大島を前線が通過したため各艇共S W 10~15m/Secの風に出合っている。この風のためだぼはぜⅡは千波崎付近でマスト折損をおこし、後から来たオリンパスⅢに救助連絡を依頼した。オリンパスⅢは大島東岸にて警戒中の巡視船げんかいに通報した。

11:15 げんかいからの報告は次の通り(保安部より)

「10:20大島元町防波提灯台より194° 2.4Mにおいてマスト折損漂流中のだぼはぜⅡ(618)と会合。同艇の要請により波浮港外に曳航する。12:30着予定。なお、オリンパスⅢより救助要請のあつた明日香はだぼはぜⅡの通報の誤りであつた」

13:10 だぼはぜⅡ土肥艇長より波浮に入港した旨連絡あり、マストをたてなおし、自力帆走で帰港予定とのことであつた。

13:25 コミTEEーボートよりレース艇発見の報、レース本部はがぜん活気づく。

13:32 E 1 m/Secの風を間切つてフィニッシュ、ファーストホーム艇はサルモンⅡであつた。

18:00 更に14分後にサガミⅡが、15後にシレナがフィニッシュしたが以後3h後続艇なく、18:00のタイムリミット直前にオリンパスⅢサンゴ、はやまるが入り合計6艇がフィニッシュした。結局シレナが総合1位となり、2位さがみⅡ、3位サルモンⅡの順となつた。

18:30 明日香、飛車角Ⅱは棄権の連絡があり、全艇確認を終り、レース本部より横須賀海上保安部にレース完了の旨報告し、謝意を表した。

20:30 レース本部解散

1968年5月7日

レース委員長 大谷 正彦

委員 西村 真

鈴木 知二

柳橋 達夫

中馬 勇

藤井 邦夫

第 2 回 大 島 回 航 レ ー ス 成 績 表

昭和 4 3. 4. 2 8 ~ 2 9

着 順	セー ル No.	艇 名	オ ー ナ ー	艇 長	T.C.F	回 航 時 刻 (龍王崎)	到 着 時 刻 (F.T)	所 要 時 間 (E.T)	修 正 時 間 (C.T)	順 位	
										ク ラ ス	総 合
1	1 9 9	SALMON II	富 永 弘	飯島征四郎	0.756	29日05.25	29日13.32.43	27.32.43	20.49.27	Ⅲ 2	3
2	1 6 4	さがみ II	飯島元次	飯島元次	0.741	◇ 05.20	◇ 13.46.40	27.46.40	20.35.00	Ⅲ 1	2
3	1 7 9	SIRENA	大磯見薫	大磯見薫	0.706	◇ 05.35	◇ 14.34.29	28.34.29	20.10.25	Ⅳ 1	1
4	3 1 5	OLYMPUS III	落合公平	落合公平	0.701	◇ 06.50	◇ 17.09.14	31.09.14	21.50.19	Ⅳ 2	4
5	3 4 6	SUNGO	鳥飼俊宏	鳥飼俊宏	0.701	◇ 06.30	◇ 17.39.25	31.39.25	22.11.29	Ⅳ 3	5
6	6 1 4	はやまる	立松泰雄	武市俊	0.751	◇ 07.18	◇ 17.50.21	31.50.21	23.54.40	Ⅲ 3	6
	6 1 0	飛車角 II	名和幸夫	周東英郷	0.762	◇ 08.00	—	—	D.N.F	—	—
	6 0 8	明日香	加藤栄美	加藤栄美	0.703	◇ 06.05	—	—	D.N.F	—	—
	6 1 8	だぼはぜ II	土屋徳三郎	土肥丈志	0.703	—	—	—	D.N.F	—	—
	3 6 1	AOLELE II	向井七男也	神服 巖	0.711	—	—	—	D.N.F	—	—
	3 8 3	TONGA	R.L.COOPER	—	0.739	—	—	—	D.N.S	—	—
	3 1 9	かまくら	中戸将治	—	0.705	—	—	—	D.N.S	—	—
	3 8 9	NADJAI	白崎謙太郎	—	0.701	—	—	—	D.N.S	—	—
	3 3 4	JUNEBRIDE	鈴木礼三	—	0.688	—	—	—	D.N.S	—	—

優勝杯 ~ SIRENA
賞杯 ~ (クラス III) さがみ II, SALMON II
◇ (クラス IV) SIRENA, OLYMPUS III
フーンストホーム賞 ~ SALMON II
ウイニングアラダ ~ (1位) SIRENA
◇ (2位) さがみ II
◇ (3位) SALMON II

第 2 回 大 島 回 航 レース 会 計 報 告

レース帆走委員長 大谷正彦

収 入

参加申込料	13 隻	2 6, 0 0 0
参加遅延申込料	1 隻	4, 0 0 0
参加料(会員)	42 名	4 2, 0 0 0
参加料(一般)	4 名	1 2, 0 0 0
合 計		8 4, 0 0 0

支 出

レース本部運営費(宿泊費、食費、交通費)		3 3, 2 2 0
才1回艇長会議借室料		2, 7 0 0
電話料(特設料、度数料)		5, 0 0 0
神奈川ヨット無線夜間使用料		4, 8 0 0
印刷費(帆走指示書、出艇表)		1, 5 0 0
謝礼品代		3, 6 5 0
消耗品(電池、用紙、その他)		5, 0 0 0
雑 費		1, 0 0 0
合 計		5 6, 8 7 0

		2 7, 1 3 0
--	--	------------

24字が夫々過る

43年大島回航レースにおける

◇だぼはぜⅡ◇マスト折損によるリタイヤーの報告

NORC NO.618 ◇だぼはぜⅡ◇

乗組員 6名

艇長 土肥丈志 31才 市川市平田町2-6-2

オーナー 土屋徳三郎 56才 江戸川区小岩町5-413

スキッパー 村瀬哲夫 29才

クルー(1) 川島克彦 23才

◇(2) 伊藤義信 24才

◇(3) 山本ゆみ子 24才

43年4月28日午前10時小網代をスタート、コース210°にて大島風早崎を目指し、NW 2m/Secの風に乗リスピンを展開南下をし、途中弱い前線の通過による雨と無風、風の振れに悩まされて同夜23時頃には、風早崎燈台を降雨の切れ間に確認できる位置約風早崎北東5海里の地点に達しました。この頃より南東の風6~7m/Secのコンスタントな状態になつたのでスピンを下し、NO.2レギュラージブのポートタック、リーチングにて乳ヶ崎北端を目指して4~5ノットの速力で走つていました。途中豪雨の為視界が著しく悪化したので潮流により大島方向へ流される危険を考慮してコースを幾分西におこし5Kt位にて29日午前1時頃より大島北西端を廻航しました。この頃風は幾分東に振れ幾分風力も増した様子でブロー8m/Sec位になつていた様子です。このままのタックにて、明方4時頃まで帆走し、4時00分ヘルムスマンを交代、DFにての推定位置(風早崎及び剣崎よりの電波により)は大島波浮港北西約7~8海里の地点にあつた様です。大島を東に離し過ぎた様でしたので、又風も大分東に振れていたのでタッキングをしてコース120°にて大島に艇首を向けました。4時40分頃前方半海里の地点をシレーナ号らしき艇体が龍王崎に向いその後方にヨールらしき(スターボードサイド3時の方向であつたのでスループ若しくはヨールかが判明しませんでした)レース艇を認めております。又後方、半海里の地点にJ.O.Gらしきレース艇がポートタックにて、帆走しているのが確認できました。天候は時折り10m/Sec前後の南東のブローがあ

り、雨はありましたがそれほど強くはなく、視界も夜明けと共にさほど悪い状態ではなかつたと思います。5時10分突然バアンと云う音と共にポートサイドにマストが折損して倒れ、上部3分の一位の箇所より水中に没してしまいました。この時大島、三原山が一瞬見えておりましたがすぐ雨が強くなり再び視界より消えてしまいました。後から推定して、80度の方位であつたと思います。ただちにオールハンズオンデツキを命じ、オーナーがテイラーを持ちエンジンを始動しました。この時折損したマストに着いているハリヤード類がキールをひとまわりしている為ベジを始動することが出来ずそのままニュートラルにて風下20°~30°位の方向に流されつつ、早急にリギンハリヤード類の拾い上げに全力を傾けました。ローリングが激しい為スターンより50 meterのアンカーロープを流し、マストの拾い上げを計りましたが足場が悪く、マストがスプレダー下部より折損している為水中に浸つた部分が大きく水圧にて、激しい困難を感じ又、真風下ではありませんでしたが潮流にて大島に寄せられている様子でしたのでクルーに命じ、丁度、艇より北西一海里位の地点を風早崎方向に航行する漁船に曳航を依頼すべく、フレーザー及びフオグホーンにて連絡を取らせました。然し漁船は当艇に気付かずそのまま北東に走り去り申し訳ない事にレース艇オリンパス号がこれに気が付き、コースを変更し接近して呉れました。この時の時間は5時30分頃と思われます。オリンパス艇長より曳航を親切に申込まれましたが、不要の旨連絡し、若し無電連絡が出来れば、近くにいる漁船に曳航を依頼して呉れる様話し、自力にて航行する旨伝えました。この頃一方ターンバックルの取り外しが終了し、ロープ類のみだけの拾い上げが出来ましたのでクラッチを前進に入れることができました。走り去るオリンパスにお礼を云つて、コース10°にて乳ヶ崎にコースを向け3~4Ktにて機走を開始しました。この頃大島はスターポートサイドに3海里位の箇所に見えておりました。雨も幾分小降りになり、マストの拾い上げも努力の甲斐あつて完了したのは6時30分頃になつていたと思われます。この頃前方1/4海里位のコースをクはやまるクがポートタックにて横切つて行きました。これより10分程後同艇は当艇のマスト折損に気付きコースを戻し接近して呉れました。武市氏より自力航行が可能なりやとの問いが寄せられましたが、既に機走をしていた時であるのでこのままコース20°にて風早廻航後三崎に向け機走にて帰港する旨伝え別れました。その後7時30分頃元村港突堤一海里程の海面に達した処、低気圧の通過による風向きが180°変り北西風が豪雨を伴い7~8 m/Sec吹き出したのでこのままコース10°にて乳ヶ崎を廻航することが不可能と判断し三崎行きを変更し、波が高く危険ではあると判つてはいましたが試みに元村突堤先端南側に接舷を試み

リギン及びスパー類の整理をした上で簡単な応急帆を急造して波浮港に避難することに変更しました。波は南より相当強く防波堤によせていましたがスターンアンカーと北西の強風に幸いされて接舷を無事完了したのは8時20分でした。直ちに Komitee に連絡を採り応急処置を施す可く作業に取り掛りましたが波が高く又風向も定まらず再び南に振れることも考えられましたので永く留まることの危険を感じロープ類と折損マスト下部の取り外しを終了し次々機走にて波浮に廻航することとし8時50分オーナー及びクルー一名は仕事の都合にて退艇し、四名にて元村港を離岸しました。30分程機走した処オリンパス号よりの無電連絡により巡視船クげんかいクが搜索に出ているのに発見され再び風向が南東に変つて進行方向より波と伴に次いで来た為クげんかいクより曳航する旨連絡あり好意を感謝して受け波浮沖 $\frac{1}{2}$ 海里の地点まで曳航されました。11時30分波浮入港接岸し直ちに作業を開始スプレツダーより上方のマストを細工して仮マストを立てストームセールを張れる程度に処置し、天候の回復を待ち明日4月30日早朝油壺へ向うこととしました。

4月30日5時波浮出航12.00油壺に帰港しました。

クオリンパスククはやまるクの両艇には誠に申し訳なくお詫び申上ます。又海上保安庁クげんかいクの皆さん元村港にて種々の指示を与えて下さつた方々、又波浮の東京都無線局の方々に改めて御礼を申上げます。

なおマスト折損以降の時間についてはハツチが閉まらなくなつた為と不注意の為航跡図に記入した時間が豪雨に濡れて、判読出来なくなつた為推定時間ですので元村寄港の時間までは不正確な点があるかも知れませんので念の為申し添えて置きます。

昭和43年5月5日

クだほはぜⅡク

艇長 土肥 丈志

赤字が決定通り

だぼはぜⅡ世事故状況及救難活動報告書

4 3. 5. 1

Olympus III 落合公平

当時(4 3. 4. 2 9 0 5. 0 0 ~ 0 6. 0 0)の事故海面(大島千波崎 S 1.5 M、龍王崎 W 2 M、大島岸より約3 0 0 m)は前線通過下にあり、S W 1 2 ~ 1 5 mの風、波高5 m、波長3 0 mのうねりに加え風圧に依る2 ~ 3 KtのN W流の潮があり、視界は2 Mで現場からは島影がタツク毎に見えたり見えなかつたり程度であつた。又島よりの反射波と潮の関係で三角の悪浪になやまされパンチングの連続である。0 5. 4 0、だぼはぜⅡ世は当艇の前をゼノアフルセールにアビームの風を受け快調に飛ばしS Eに下つた。約5分遅れOlympusもゼノア、0.1リーフで之を追い、やや落し気味にこれを抜いたと思われる頃、クルーより「だぼはぜがジフ丈けにしました」との声がかかる。小生は丁度キャビン内でチャートワーク中のため何気なしにこれを聞き流した。数分後コクピットに戻り同艇の位置を見回すも判らず更に数分針路をN Eに変えたとき0 5. 5 0後方3 0 0 mに漁船らしきものを見た。うねりの頂に立つた時船体が青だと判り変だ!!と感じたと同時に同艇でたかれた救難番号紅炎を認め直ちに反転、1 5 m/S Wのコーナーリーで約2.3分で声の届く位置に近ずき「曳航するか?」と訊ねると艇長自らマストリギン類を片付け乍ら「貴艇の無線で救難、曳航依頼を保安部に頼む」とのこと「了解」同艇を一巡して針路をEに戻すと共に無線機をS W I T C H I Nするも同位置は丁度島影で三崎との通信不能位置、急ぎ島を離れ基地局との通信可能地点を目指す。約3 0分を経て再び発信するも応答なし、これより先前夜来当艇の無線機は不調となり発信可能なるも受信不能となり片側通信の状況で基地局よりの応信を確める術なく、発信は5回、2分間隔で行つたものの届いたか否か不安であつた。(帰港後基地局に問合せたところ受信されなかつたとのこと)、そこで波浮港に緊急入港通報すべく針路を同港口に向けたが、港口は折からのS Wの風波に泡立ち機帆走でもあのせまい水路を危険なく入ることはむつかしいと断念して、エンジンスタンバイをかけたが(実際は始動しなかつた)其のまま港口を見送り再びN Eに向けた。岸寄り1 5 0 m迄近付いたので相当きもを冷したが大島南岸を大廻りに東を指向する数艇を認め(明日香、S U N G O、S I R E N A等)此の内側を一気に強行突破した。救難は行会い漁船に頼む決心であつたが、無線の有効性に対する疑念が頭を悩した。この際明日香、S U N G Oを抜き去り、S I R E N Aを指呼の間に追つたがこのとき

右前方 500 m に巡視船「げんかい」を認め、これに近づく可く徐々に他艇より外側上り気味に出た然し巡視船も航行して居ることとて仲々近ずかず、この状態が一時間余り、07.25 げんかい停船したので大分近付き 300 m 位に達し、サーチライトで SOS (…— — —) を発し、同時に手旗信号で「マストセツソントンエイエイコウタノム」を発したところ、巡視船の方より当艇に 15 m 迄近づき来り、メガホンで艇名、セール番号を問合せ、反転して救難に向かつて呉れた。(08.00) のときクルーがセール No を間違え 608 を告げたため事故艇明日香と誤認され同艇に迷惑を掛けたこととお詫びします。

以上ですが同救難のために要した Olympus III の時間的ロスは通算 20 分前後と考えます。

今回の救難活動が実際には遺憾乍ら無線器の故障でこれが役立たず、遇々附近に巡視船がエスコートして居て呉れたことに依り処置されたもので当艇の処置は空振りに終つたことを申訳なく思いますが、だぼはぜ II 世が事なきを得たことは幸でした。

以上

(c) 才 18 回大島レース経過報告書 *赤字が小さい過ぎる。*

レース帆走委員長 津野守邦

5月24日(金)16.00 小網代丸八旅館にコミッティー本部を設置する。ただちにスタートライン用のマークボートの手配にかかるが予定したエメラダ号がコーキング整備のため使用できず、急ぎよ8フィートエルトロを手配した。その他にテンドー一隻、12フィートのモーターボートを一隻、海上本部として「智美」を用意した。

折から16.00の天気予報で2つの低気圧の発生を知り横浜気象台に電話をし、さらに詳しく海上の様態を聞いたところ風波はそれ程大したことはない様で、レースを予定通り行い事にする。

21.00 出艇申告受付開始「かまくら」より電話でレース参加中止の旨連絡ある。22.00 出艇申告完了した艇は17隻であつた。22.05「はやまる」「シレナ」出艇申告に来る、艇長には口頭で注意して一応受付したが今後この様なことは絶対ない様にしてもらいたい。(出艇申告19隻)

25日コミッティーボート「智美」07.00 油壺出港し、07.15 スタートライン設置完了、07.30 レース参加艇がぞくぞく出て来る。

07.50機走艇がないことを確認し、スタートの秒よみに入る。

08.00スタート、北風3~4mの中を「潮風Ⅲ」「NADJAⅡ」に続いて全艇きれいなスタートをきる。早くも「SALMONⅡ」はスピンをあげるがどうも調子よくない様で、すぐ降ろした。

08.30「天城」がスピンをあげ南東に風が変ることを予想してか南へ下していつた。他艇は初島をねらつてフリーのコースを朝もやの中にその雄姿を消していつた。

08.40コミッティーは一応丸八旅館に引きあげ横須賀海上保安部、NORC本部、その他に19隻スタートした旨電話通報す。天気図に依ると低気圧が接近している為、かなり強風が予想され夜半すぎにはファーストホームの姿が見えると予想されたので、26日午前0時よりオールナイトのワッチを組むと同時に荒天が予想されたので、フニツシュラインを小網代湾口より中に入れた。25日正后風波共に全くなくベタナギ状態にある嵐の前の静けさか？

13.37「OLYMPUSⅢ」から無線連絡があり初島東3マイル南風0.5m波高0、視界悪し、2マイル「NADJAⅡ」「SUNGO」「AOLELEⅡ」が視界にあり他は見えず。

14.15同じく「OLYMPUSⅢ」より連絡あり、14.00現在6隻初島を廻る。視界悪し艇名不明。15.07の15.00現在無風初島を廻つた艇は「OLYMPUSⅢ」「NADJAⅡ」「AOLELEⅡ」他2隻

16.08の16.00現在熱海湾にある艇7隻「SUNGO」「NADJAⅡ」「SALMONⅡ」の順。16.51の無線通報は16.00と同じ状態。

21.45海上保安部より初島灯台S60°W4マイルをレース艇14隻が通過の旨受報す。

26日05.00雨が降り始める。艇影未だ見えず風は北東5.6mと思われ次第に強くなると思われる。09.10「OLYMPUSⅢ」より現在地大島横を帆走中、07.00全艇龍王崎を通過最後尾艇「AOLELEⅡ」「OLYMPUSⅢ」南風5m視界2マイル雨。

09.50「OLYMPUSⅢ」より大島通過、風早崎NE22マイル北上中、風NE10m、波高1m、視界悪し、他艇全く見えず、本艇最後尾と思うと受報。

10.45「SALMONⅡ」より3~4時間の後フニツシュ予定、レース艇4~5隻見えるが視界悪く艇名は不明と受報。

11.00雨あがる。風次第に強くなるが未だファーストホーム艇見えず12.00城ヶ島のWS

Wより北上中のヨット2隻望見す。

12.27ファストホーム艇「はやまる」フニツシュ、13.00この旨横須賀海上保安部に報告す。

15.21現在13隻フニツシュ16.26「OLYMPUS III」より城ヶ島南西4マイル、後方に「AOLELE II」見える。本艇はタイムリミットまで頑張るとの連絡受報す。

この頃より、風や、落ち遅れた艇程おそくなつたが最終艇「AOLELE II」が18.18.57フニツシュし、全艇無事にて本レースを終了した。

才三管区海上保安本部、横須賀、下田各海上保安部始め参加艇各位その他関係各位のご理解とご支援にて本レース帆走委員会の任務を恙なく果させました事を感謝申し上げます。

(43.530)

第18回大島レース会計報告書

レース帆走委員長 津野守邦

収 入

参加申込料	24隻	48,000
◇ 遅延料	1隻	2,000
参加料(会員)	66名	66,000
◇ (一般)	14名	42,000
合 計		<u>158,000</u>

支 出

レース運営本部経費(宿泊費、食費、交通費)	47,660
電話料(特設架設料含み)	5,000
才1回艇長会議借室料	2,100
マークボート、通船借料	3,000
印刷費(帆走指示書、参加艇表)	1,500
消耗品代(電池、用紙、ボールペン等)	2,000
雑 費	1,000
合 計	<u>62,260</u>
差 引 残 高	<u><u>95,740</u></u>

第 1 8 回 大 島 レ ー ス 成 績 表

(昭 和 4 3 年 5 月 2 5 日 ~ 2 6 日)

N O R C 関 東 支 部

レ ー ス 帆 走 委 員 長 津 野 守 邦

(初 島) 回 航 時 間	ク ラ ス	セ ー ル N O .	艇 名	オ ー ナ ー	艇 長	T・C・F	(龍 王 崎) 回 航 時 間	到 着 時 間 (F・T)	所 要 時 間 (E・T)	修 正 時 間 (C・T)	順 位		着 順
											ク ラ ス	総 合	
時 分 25日15・30	Ⅲ	614	は や ま る	尾 島 裕 太 郎	武 市 俊	751	時 分 26日04・35	時 分 秒 26日12・27・32	時 分 秒 28・27・32	時 分 秒 21・22・21	1	②	1
〳 14・30	〳	615	天 城	渡 辺 修 治	渡 辺 修 治	754	〳 04・22	12・43・07	28・43・07	21・39・13	2	4	2
〳 16・37	〳	610	飛 車 角 Ⅱ	名 和 幸 夫	周 東 英 郷	762	〳 04・30	13・06・32	29・06・33	22・10・52	3	8	3
〳 14・02	Ⅱ	358	潮 風 Ⅲ	竹 下 政 彦	竹 下 政 彦	781	〳 04・45	13・39・31	29・39・31	23・09・48	7	15	4
〳 18・25	V	179	SIRENA	大 儀 見 薫	村 本 信 男	706	〳 04・45	14・05・00	30・05・00	21・14・19	1	①	5
〳 19・25	Ⅲ	367	TILDE	J. Janssen	J. Janssen	739	〳 05・30	14・17・08	30・17・08	22・22・51	4	9	6
〳 19・25	Ⅳ	381	八 丈	近 藤 禎 之	近 藤 禎 之	709	〳 05・40	14・19・22	30・19・22	21・29・55	2	③	7
〳 16・35	Ⅲ	164	さ が み Ⅱ	飯 島 元 次	飯 島 元 次	741	〳 04・56	14・34・07	30・34・07	22・39・04	5	11	8
〳 18・20	Ⅳ	366	も さ Ⅱ	さ も グ ル ー プ	守 屋 克 巳	710	〳 04・50	14・43・20	30・43・20	21・48・46	3	5	9
〳 20・00	Ⅲ	199	SALMONⅡ	富 永 弘	富 永 弘	756	〳 05・20	14・59・24	30・59・24	23・25・42	8	16	10
〳 18・30	〳	341	SEA WITCH	W. A. Dupse	W. A. Dupse	738	〳 05・15	15・16・36	31・16・36	23・04・55	6	14	11
〳 16・45	Ⅳ	340	SHARK X	森 村 謙 二	森 村 謙 二	708	〳 05・55	15・19・37	31・19・37	22・10・46	5	7	12
〳 19・40	Ⅳ	389	NADJA Ⅱ	白 崎 謙 太 郎	白 崎 謙 太 郎	701	〳 05・10	15・21・02	31・21・02	21・58・36	4	6	13
〳 19・45	Ⅳ	346	SUNGO	鳥 飼 俊 宏	鳥 飼 俊 宏	701	〳 05・15	16・16・23	32・16・23	22・37・24	6	10	14
〳 16・50	Ⅳ	369	潮	豊 泉 茂 基	豊 泉 茂 基	710	〳 05・30	16・29・42	32・29・42	23・04・17	8	13	15
〳 16・15	V	322	朝 風	朝 比 奈 新	朝 比 奈 新	700	〳 05・10	16・30・43	32・30・43	22・45・30	7	12	16
〳 19・35	Ⅳ	183	CYGNUS		大 河 原 明 徳	717	〳 05・05	16・56・43	32・56・43	23・37・18	9	17	17
〳 20・42	Ⅳ	315	OLYMPUS Ⅲ	落 合 公 平	落 合 公 平	701	〳 06・58	17・57・29	33・57・29	23・48・16	10	18	18
〳 18・36	Ⅳ	361	AOLELEⅡ	住 友 ケ ミ カ ル	江 面 誠 二	711	〳 07・02	18・18・57	34・18・57	24・23・54	11	19	19
	Ⅱ	323	KAY SEVEN										
	Ⅲ	388	稲 龍										
	Ⅳ	370	MAMBOW		D. N. S								
〳	〳	319	か ま く ら										
〳	〳	602	桜 工										
							総 合	ク ラ ス Ⅲ	ク ラ ス Ⅳ				
							1 位	シ レ ナ	は や ま る	シ レ ナ			
							2 位	は や ま る	天 城	八 丈			
							3 位	八 丈	飛 車 角 Ⅱ	さ も Ⅲ			

第 2 回 大 島 回 航 レ ー ス 成 績 表

昭和4 3. 4. 28 ~ 29

着 順	セー ル No.	艇 名	オ ー ナ ー	艇 長	T・C・F	回 航 時 刻 (龍 王 崎)	到 着 時 刻		所 要 時 間 (E・T)	修 正 時 間 (C・T)	順 位	
							(F・T)				ク ラ ス	総 合
1	199	SALMON II	富 永 弘	飯 島 征 四 郎	0.756	29日 05・25	29日 13・32・43	27・32・43	20・49・27	Ⅲ 2	3	
2	164	さ が み II	飯 島 元 次	飯 島 元 次	0.741	〃 05・20	〃 13・46・40	27・46・40	20・35・00	Ⅲ 1	2	
3	179	SIRENA	大 儀 見 薫	大 儀 見 薫	0.706	〃 05・35	〃 14・34・29	28・34・29	20・10・25	Ⅳ 1	1	
4	315	OLYMPUS III	落 合 公 平	落 合 公 平	0.701	〃 06・50	〃 17・09・14	31・09・14	21・50・19	Ⅳ 2	4	
5	346	SUNGO	鳥 飼 俊 宏	鳥 飼 俊 宏	0.701	〃 06・30	〃 17・39・25	31・39・25	22・11・29	Ⅳ 3	5	
6	614	は や ま る	立 松 泰 雄	武 市 俊	0.751	〃 07・18	〃 17・50・21	31・50・21	23・54・40	Ⅲ 3	6	
	610	飛 車 角 II	名 和 幸 夫	周 東 英 郷	0.762	〃 08・00	〃 —	—	D・N・F	—	—	
	608	明 日 香	加 藤 栄 美	加 藤 栄 美	0.703	〃 06・05	〃 —	—	D・N・F	—	—	
	618	だ ぼ は ぜ II	土 屋 徳 三 郎	土 肥 丈 志	0.703	—	—	—	D・N・F	—	—	
	361	AOLELE II	向 井 七 男 也	神 服 巖	0.711	—	—	—	D・N・F	—	—	
	383	TONGA	R・L・COOPER	—	0.739	—	—	—	D・N・S	—	—	
	319	か ま く ら	中 戸 将 治	—	0.705	—	—	—	D・N・S	—	—	
	389	NADJA II	白 崎 謙 太 郎	—	0.701	—	—	—	D・N・S	—	—	
	334	JUNE BRIDE	鈴 木 礼 三	—	0.688	—	—	—	D・N・S	—	—	

優 勝 杯 ~ SIRENA

賞 杯 ~ (クラ ス Ⅲ) さ が み II SALMON II

〃 ~ (クラ ス Ⅳ) SIRENA OLYMPUS III

フ ァ ー ス ト ホ ー ム 賞 ~ SALMON II

ウ イ ニ ン グ フ ラ グ ~ (1 位) SIRENA

〃 ~ (2 位) さ が み II

〃 ~ (3 位) SALMON II

(d) レース委員会レポート

法字大まく

A 最近、相模湾ポイント・レース、或はシリーズ・レース等の影響のため、レース艇の水準が目に見えて向上し、各艇相互のつばぜり合いも厳しくなってきた。

それにともない、スタート、マーク廻航など、こゝ三年前には考えられなかつたような緊迫した場面が毎月のように見られるようになり、同時に接触もしくは衝突の危険も多くなつてきたようである。

多くの場合、これは単に各艇間の競合意識が強まつた為のみでなく、レース規則が充分理解されていなかつたり、航路権が無いのに自艇が権利艇にあると誤認していることが原因になつている。

重大な衝突事故を未然に防ぎ、且つレース中のフェアプレイを保障するため、レース委員会では次の二つの事業を本年後半に行うことを決めた。

(イ) スタートラインが適切に引かれ、風上マークにレース艇が集中する等の現象が起きないよう、小網代湾口の今までのスタートを湾外に移し、スタートラインの向きを風によつて或る程度調整し、巾も充分に取り、風があまり振れないで比較的安定している状況でスタートが行なえるようにする。このためスタートマークのブイを2ヶ新調し、定置網の沖でスタートできるようにする。

(ロ) 二年程前に書いた「外洋ヨットの航法」が絶版になつているので、スタート、追越し、マーク廻航等の場合の具体例を取上げながらルールの解説をしたものを追加して、増補改定版を刊行すること、及び、それをテキストにして「安全とフェアプレーのための講習会」を持つことにし、これにはできるだけ多くの参加者を確保することに是非会員各位の御協力を願いたい。

B 前から課題となつていた、帆走指示書の原形を作り、各レース共通の部分を成文化し、各レースの帆走委員会はそのレースだけの特別事項(スタートライン、フィニッシュライン、タイムリミット等)を加えれば良いようにする。

C 京都支部からだされている、「JOGとクラスⅢ以上のレースは分離した方がよい」という意見について先づレース委員会で或る程度、討議した上で広く会員の意見を求めるようにすることを決定した。又、小型艇(クラスⅣとⅤ)に対して現行のレース規則(安全規則)

が不合理あるいは過度の要求を規定していないかどうか、来年の総会を目標に研究することにした。小型クルーザーのための世界共通の安全ルールの草案が International Association for Small Offshore Racing Yachts よりだされているので、できるだけこれに則つとる方向で考えようということになっている。

5. ← 第4回ホンコンーマニラ・レース報告書

MISS SUNBIRD 山崎達光

1. 参加艇 17

2. レース海面

ホンコン〜マニラ

(ホンコン、ジャンクベイ〜マニラ コレヒドール)

約 600 マイル

3. 1968 4/5 16:00 スタート

4. レース状況 (別紙)

5. レース結果 (別紙)

レース状況

4/5日、午前中よりホンコン、ヨットクラブに集結した17艇のヨットは朝から食糧その他の積込に大わらわ。我ミス・サンバードも氷その他を積込んで14:00ヨット・クラブを出てスタート海面のジャンク・バイへ向う。廻航組の5人に加えオーナー他2名の総員8名。ホンコン水道は風速4~5mの順風。約1時間でレース海面のジャンク・ベイに着く。すでにスタート・ライン近くではレース艇が往来して、3日前に練習した時のジャンク・ベイより狭く見える。スタート30分前ホンコン政庁の百フィート近いランチがスタート・ラインを決定して錨を下す。スタート・ライン近くは、このレースを観戦しようとモーターボート、ジャンク等が出て大変な賑い。我らも赤いリボンの麦わら帽子をかぶり彼らのカメラの餌食となり、大いに愛嬌を振まく。スタート15分前上手よりスタートを狙う。上手に出て、下手にフリーウオーターを持つ。うまくいった。これだけフリーウオーターを持てばリコールしても直ぐ帰さる。思い切つて全速で進む。我々の上手よりマラノア(M.Y.C)がスタートを狙う。1分前全速でスタートラインへ向う。いいスタートだ!上手のマラノアはリコールした様子。友艇

ミネルバⅢも20m程下手から、いいスタートを切った模様。その内遙か下手よりグリーン・ベレイがぐんぐん追上げてくる。間も無くトツブに出る。

さすが60フィートの巨体、他艇とはスピードが違う。見る見る小さくなつて行つた。約1時間、ホンコン水道入口のワンラン灯台に近づく。後方よりレベリー(RHKYC)が追上げて来る。我々より艇速が有る様なのでジブを変えて見るがやはり越されてしまう。18時ワンランをかわず。日はすでに没し、まさに黄昏時。レブリーの艇灯は近くに見える。風はE3~4m。今夜中にレブリーを取らえるぞ! 進路140°

22時前方にレブリーの舷灯。後方にヨツトラしき光を見る。どんどん近づいて来る。帆影が確認できる程になる。ラムセス・ロール(M・Y・C)だ! レベリー ミス・サンバード マラノマと一線に並ぶ。その内ラムセス・ロールがどんどん遅れる(この時のトラブルでDNF)。一夜中4~5mの風が続く。夜明を迎えるが未だレベリーを追越せず。なんとかレベリーを捉え様とするが思う様にゆかない。12時前レベリーに近づく。しかし又真横になる。

6日の夜 レベリーの舷灯を見ながら全力を上げる。風は3~4mよく走る。しかし、レベリーとの差は変わらない。6日朝、明るくなるとレベリーがよく見える。この状態で1日終る。6日16:00スタートより170マイル。夜に入つて風が息を始める。しかし、レベリーとの差は変わらない。

7日の夜明を迎える。レベリーが近くに見える。今度こそ! 全力を上げて追上げる。12時前、レベリーをとらえる。追越す。7日16:00スタートより337マイル。夜に入つて又レベリーに追いつかれてしまう。

8日の夜明を迎える。風をうまくつかんでレベリーを追う。昼前レベリーを追越してかなり離す。うまくいつた。午後になつて風が弱くなり気温も上り34~35℃。まつたく暑い。これが支那海のデッド・カームか? 空を見ても雲影は全く見えない。風力0、艇速0、塵を海面へ捨て塵は前に進んでしまう。

8日16:00スタートより437マイル。前日より100マイル。8日の夜になつても風力0。夜は暑さが気にならないのでらくだ。明けて9日やはり雲影は見えず。午後になつて東の空に雲が見える。おそらく雲の下はルソン島であろう。風は近いぞ! 全員の意気が上る。しかし暑さは強い。9日16:00 498マイル。夕方になつて風が来る。陸の方から風が有

る様なのでできるだけ早目に陸に近づく事にする。前にも後にもヨツトラしき灯は見え。ずつとルソン島に近づいて1路南下する。

10日の朝、前方に1艇(ゴ布林)後方に1艇ヨツトラしき影を見る。ゴールも近い。岸沿いに全力を上げてゴ布林を追い。カボネス・アイランドをかわしマニラ湾に向う。

10日16:00 スタートより627マイル。前方のゴ布林なかなか近づくない。11日0に00ゴールのコレヒドールの灯台が見えてくる。ゴ布林とタツキングマッチをしながらゴールに向う。しかし潮が強いと、波が悪いためなかなかゴールできない。11日03:00潮も弱くなつた。04:47:20ゴ布林に続いてゴールする。セールを下し、ビール会社からのビールのプレゼントを受け、ゴ布林と健闘を称えながらエンヂングでマニラに向う。

FOURTH CHINA SEA RACE, STARTING 5th April, 1968

YACHT	SAIL No.	SIZE/RIG	CLUB	OWNER/SKIPPER	H.K.Y.R.A. or R.O.R.C. RATING	TIME CORRECTION FACTOR
GREEN BERET	2122	60' YAWL	M.Y.C.	R. BARTLETT	40.85	0.9298
RAMSES RAUL	808	58' YAWL	M.Y.C.	R. ABANILLA	36.07	0.8827
MARANOVA	77	54' KETCH	R.H.K.Y.C.	W.E. KIRBY	33.88	0.8733
MISS SUNBIRD	380	44' SLOOP	N.O.R.C.	T. YAMASAKI	27.68	0.8261
TRIDENT	H 82	42' KETCH	M.Y.C.	J.P. van BLOEMEN	26.26	0.8044
GOBLIN	87	38' SLOOP	R.H.K.Y.C.	R. McAULAY	25.13	0.8013
REVERIE	49	40' YAWL	R.H.K.Y.C.	C.F. von SYDOW	25.45	0.7965
GAIVOTA	70	39' SLOOP	R.H.K.Y.C.	R. LUSHER	25.07	0.7927
SIBONEY	32	38' CUTTER	M.Y.C.	W. BUTLER	25.08	0.7928
PEGASUS II	6	35.5' SLOOP	U.S.N.A.S.	CDR. R.G. NESTER	23.98	0.7897
MINERVA III	507	36' YAWL	N.O.R.C.	K. KIDENA	23.43	0.7840
FENG HUANG	46	37' SLOOP	R.H.K.Y.C.	W.F. CRUM	23.81	0.7802
SNOW GOOSE II	18	35' SLOOP	R.H.K.Y.C.	E. HOLM	22.72	0.7767
HRESIA	84	35' SLOOP	R.H.K.Y.C.	A. SANDBORG	21.88	0.7678
SHEARWATER III	21	37' SLOOP	TAIKOO SAILING CLUB	C. GRAHAM	22.47	0.7663
UIN-NA-MARA	61	36' SLOOP	R.H.K.Y.C.	H.H. ROSS	22.31	0.7646
PIXIE	68	31' KETCH	GUAM	CAPT. K.M. PIER	19.27	0.7390

~~The above ratings are certified by the China Sea Race Committee as valid for~~

CAPTAIN D.M. CAUVIN,
OFFICIAL MEASURER

6. 「神州」盗難事件報告

読字大きく

学習院大学ヨット部 OB会 河瀬直春

燈招フリート所属NORC・SAIL No.316「神州」は全日本学生ヨット連盟の行事協力のため、葉山港に回航繫留中5月31日朝、艇が紛失していることを知り、直ちに警察署に盗難届を提出し、関係者はもちろん、警察、海上保安庁が協力して「神州」の捜索に当つたが中々発見出来なかつた。

6月3日00:20に至り熱海沖約700mに投錨中の「神州」を捜索隊員が発見、警察官と共に同艇におもむき02:30艇内に宿泊中の犯人(17才の少年)を逮捕しました。

幸いアンカーの外には艇内には損傷、紛失せるものなく無事オーナーの手に戻りましたので報告します。

III 内海支部

1. ミネルバⅢ歓迎会

読字大きく

1968年CHINA SEA RACEに参加したミネルバⅢ世艇長、貴伝名一良氏はじめ乗組の皆様をお招きして、歓迎会を催したところ参加者55名、内海支部、始つて以来会員が集つた。

歓迎会は定刻7時より高村常務理事の「乾杯」の一声でスタート、引き続き大儀見専務理事の祝辞、ミネルバⅢ世湯浅良男君のレース報告、艇長貴伝名氏のユーモアに満ちた体験談、マニラから帰国に乘船された松本千立氏のCHINA SEA RACEの記録映画を観賞、最後に内海支部事務局津田郁太郎氏の謝礼の言葉、業務報告があり、歓迎会は盛会のうちに10時前閉会した。東海支部より御参加戴いた角田支部長、奥村さん、チタⅡ世オーナー丹羽氏、曾我氏、両氏長途御参加戴き有難うございました御協力感謝します。

(5月24日 関西ヨットクラブにて)

樽谷 博

1 9 6 8 年 内 海 支 部 レ ー ス 要 項

—40—

月 日	7 月 2 1 日	8 月 1 7 日 (土)
レ ー ス 名	紀伊水道	洲 本
帆 走 委 員 長	谷 川 晴 彦	樽 谷 博
コ ー ス	新和歌浦港—於亀瀬—田辺湾口	西宮 — 洲本
漕 数	60 漕漕	30 漕漕
ス タ ー ト 時	10.00	8月17日 23.00
ス タ ー ト ラ イ ン	新和歌浦港 詳細は帆走指示書	西宮港口 詳細は帆走指示書
フ イ ニ ッ シ ュ ラ イ ン	田辺湾口 同 上	洲本港 同 上
レ ー ス 報 告 書 提 出	フィニッシュ后直ちに白浜駐在員に提出	フィニッシュ后直ちに帆走委員長に提出
タ イ ム リ ミ ッ ト	7月23日 17.00	8月18日 17.00
出 艇 料	¥6,000— レース参加賞 一艇 一ケ	¥3,000— レース参加賞 一艇 一ケ
申 告 先	門真市御堂町15府住18棟26号 06-9087(昼) 06-992-8258(夜) 谷 川 晴 彦	宝塚市野上二丁目1-14 樽 村 博 0797-86-2221
申 込 締 切	7月6日締切	8月3日締切 左に同じ但¥2,000—を
期 限 後 申 込	締切后7日以内に遅延料5,000— を添え帆走委員長に申込む事以後の申込は受付ない。	遅延料とする。
艇 長 会 議	7月21日 08.00	8月17日 20.00
賞 杯	於 新和歌浦港防波堤上 ファストフィニッシュ賞 一位 二位 三位	於 関西ヨットクラブオーナーズルーム ファストフィニッシュ賞 一位 二位 三位
棄権・事故・緊急	田辺海上保安部 0739-2-2000	神戸海上保安部 078-33-6742
事態発生時の	下津海上保安署 07349-2-0113	関西ヨットクラブ 0798-26-0691
連絡先	小松島海上保安部 08853-2-1950 NORC事務局長津田郁太郎 0734-22-1202	樽 谷 博 0797-86-2221
出 艇 資 格	日本外洋帆走協会内海支部安全規則に合格する艇	NORC内海特殊規則に合格する艇を含む
備 考	安全装備点検 7月21日 07.00 レイティング 旧来のNOCRレーティング規則による。 前夜祭 7月20日 18.30 当日入港 の艇員で行う予定 ◎1,000/1人 レース参加申込と同時に人数を通知願います。	安全装備点検 8月17日 19.00 レイティング 左に同じ

1 9 6 8 年 内 海 支 部 レ ー ス (2)

月 日	1 1 月 2 2 日 (金)	6 9 年 1 月 5 日
レ ー ス 名	高 松	しもやけ Frost Biting Race
帆 走 委 員 長	塚 本 修	武 内 良 夫
コ ー ス	的形港 - 高松	須磨ヨットハーバー - 黒崎港
漕 数	5 0 漕	1 9 漕
ス タ ー ト 時	2 2 日 2 3 . 0 0	5 日 0 6 . 0 0
ス タ ー ト ラ イ ン	的形港外 詳細は帆走指示書	妙法寺川口 詳細は帆走指示書
フ イ ニ ッ シ ュ ラ イ ン	高松港外	黒崎港
レ ー ス 報 告 書 提 出	フィニッシュ后直ちに高松ヨットハーバー駐在員に提出	フィニッシュ后直ちに黒崎港駐在員に提出
タ イ ム リ ミ ッ ト	2 3 日 1 5 . 0 0	5 日 1 4 . 0 0
出 艇 料	¥ 3, 0 0 0 -	¥ 2, 0 0 0 -
申 込 先	神戸市東灘区御影町東明字乙女塚 2 6 8 塚 本 修 0 7 8 - 8 5 - 6 3 6 4	神戸市長田区山下町 3 - 1 0 - 1 5 武 内 良 夫 0 7 8 - 6 2 - 0 8 9 2
申 込 締 切	1 1 月 8 日	1 2 月 2 2 日
期 限 后 申 込	申込締切后 7 日以内に遅延料 ¥ 2, 0 0 0 を添え帆走 委員長に申込の事以後の申込は受付ない。	左に同じ
艇 長 会 議	2 2 日 2 0 . 3 0 於 奥村造船所	4 日 2 0 . 0 0 於 須磨ヨットハーバー管理事務所
賞 杯	ファストフィニッシュ賞 一位 二位 三位	ファストフィニッシュ賞 一位 二位
乗 権 、 事 故 、 緊	姫路海上保安署 0 7 9 2 - 3 5 - 1 0 1 6	神戸海上保安部 0 7 8 - 3 3 - 6 7 4 2
急 事 態 発 生 時 の	高松海上保安部 0 8 7 8 - 2 1 - 7 0 1 1	下津海上保安部 0 7 3 4 9 - 2 - 0 1 1 3
連 絡 先	奥村造船所 0 7 9 2 - 5 4 - 0 5 6 0 高松ヨットハーバー - 0 5 8 0	須磨ヨットハーバー 小林主査殿 0 7 8 - 7 1 - 6 9 8 7 武内良夫 0 7 8 - 6 2 - 0 8 9 2
出 艇 資 格	N O R C 内海支部安全規則に合格する艇	洲本レースに準ずる
備 考	安全装備点検 2 2 日 2 0 . 0 0 レイテングは紀伊水道レースに準ずる	安全装備点検 4 日 1 9 . 0 0 レイテングは洲本レースに準ずる

3. 内海支部事務局連絡事項

活字大きく。

◎ 本年度講習会担当部長は野本氏でしたが、同氏の都合により松本啓氏に変更します。近く新部長より日、時、計画等発表される予定です。

◎ 昨年度レースに参加艇のF・C・Tの変更があり、亦一部レース結果に計算違いがあり、御迷惑をおかけし申し訳ありません。

次の通り訂正願います。

紀伊水道レース

セールNO.	艇名	TCF	修正時間
40	ミネルバⅡ		35h04m5
73	ドンドロⅠ	・700	35.05.3

高松レース

507	ミネルバⅢ	・781	8h37m
70	シルフィード	・698	11.26
503	ステラマリス		11.32

ナオタン・ワイカレ、は未登録艇

◎ 昨年度レースの表彰式、カップの製作が間に合はず、行なえませんでした。出来次第、楽しい会をおこない度く思います。表彰式担当部長は井上透氏です。

◎ 本年度より実施しました。担当部長制、すでに二つの行事も、各担当部長の御協力により盛會に終わりました。その御苦勞に感謝します。

◎ 本年度レース計画は合田レース担当部長より発表されました。出場希望者は出来るだけ御協力下さる様お願いします。

S43年5月末現在変更届

◎ 会員NO.	氏名	変更住所	変更勤務先
0	津田郁太郎		和歌山県工業試験場 TEL岩井(07366)3271
18	稲川武志郎	神戸市須磨区東町二丁目一番廿五号	
22	重本 弘定	香川県三豊郡豊浜町姫浜1245の1 TEL 豊浜局666	三豊総合病院
33	白戸 健	岡山県玉野市和田五丁目三番19~102	
36	前田 豊一	神戸市須磨区月見山町2丁目3-5 (078)71-7075	

会員No	氏名	変更住所	変更勤務先
49	大橋 哲也	豊中市赤坂一丁目36	
57	井上 透	奈良県比叡郡王寺町本町一丁目 16の4 郵便番号 636	
58	岩井 英夫		大阪市東区北浜4丁目43 岩井産業株式会社
59	野間 誠三	西宮市甲子園七番丁6の10 TEL (41)2060	ノールウエー船級協会 TEL (39)4841
60	奥井 彰	豊中市千里西町A16棟308号	岩井地所㈱ TEL(202)2261
74	正富 忠彦	豊中市服部南町1丁目七番32号560	
76	武谷 俊雄	次田市竹見台3丁目1番031~105号	
83	勝 昌義	神戸市垂水区東垂水町字高丸762~255	

IV 東海支部

1. 「しきなみ」乗艦実習の記

注記あり

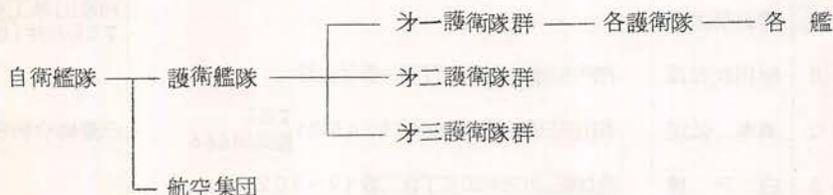
坂井 繁之

去る4月4日から6日までの3日間、我々NORCの有志16名は、自衛艦「しきなみ」と「いそなみ」に乗艦して、本州南海面での海上自衛隊の演習に参加しました。民間人が直接演習に参加するのはめずらしいことですが、それは東海支部角田氏をはじめNORC本部の方々の積極的な働きと、それにもまして(1)海上自衛隊第1護衛隊群の幹部の方々の御厚意に負うところが多いと聞いています。

ヨットと自衛艦では、目的・性能等異質な面も少なくないのですが、同じく海にあるもの、いろいろ貴重な体験をさせていただいたことを参加者一同喜んでます。

以下拙い文章ですが私の乗艦記とします。

(1) 自衛艦隊の編成



4月4日朝7時、国鉄横須賀駅。名古屋から夜行で来て顔も洗っていない。このところ睡眠不足が重つていて、オブラートに包まれたような感じの頭には、勤めに急ぐ人達の流れの外にあるように落着かない。寒い。差入れの弁当があるが、腹が空いているのかどうか自分にもはつきりせず食べる気にもならない。いつもながらいやなはじまりだ。駅のベンチで時間を待つ。

8時、海上自衛隊横須賀基地。NORCの16名全員集合。受付をしているうち本部の麻里さんが見送りのために東京からみえた。朝早くから御苦労さま。

NORCのネームプレートを胸につけて自衛艦へ。「しきなみ」へは今回の行事の責任者角田さん以下東海を主力に、関東、京都、西内海支部の12名、「いそなみ」へは井上さんの引率で京都支部の4名がそれぞれ配属。井上さん愛用のキャブテンハットがイカしている。内火艇の騒がしさが出航前のあわたたしさを感じさせる。簡単な自己紹介と説明のあと艦内の案内。その間、NORC側の引率者は内火艇で先1護衛隊群旗艦「たかつき」に向い、藪下司令に挨拶、先8護衛隊の井上司令にも挨拶を済ませる。乗員は金具類の手入れに余念がない。日頃、海上自衛隊と聞くとネイビーブルーの制服を思い浮べていたが、航海中は幹部がグレー、隊員は白の作業着ある。我々には幹部用のを貸してもらえた。着ている時はさほど気にならなかつたが、あとで写真でみると結構サマになつていた。

与えられたパスは3段式ベット。3月上旬の小笠原視察団もここで寝起きしたとのこと。毛布のたたみ方を教えられて整頓後甲板へあがる。我等はオールウエイズオンデッキ。

1100出港。ここ田浦の港は風もなく暖かい。満開の桜があちこちに浮ぶ。「たかつき」「いそなみ」「しきなみ」の順にアンカーを揚げるとみるみるスピードがあがる。あれが米軍の空母戦闘機、白いのがブエプロ号で有名になつた観測船。どんどん追いぬいてゆく。当然のことながらヨットとの性能のちがいに改めて驚く。最高速度32ノットとのこと。昔の駆逐艦に相当する。高気圧につつまれて快晴なれど視界やや良程度の花見日和。

出港後しばらくして演習に入る。1300から1450まで水上目標対潜訓練(1450はヒトヨングウマルと読む。ヒト、フタ、サン、ヨン、ゴオ、ロク、ナナ、ヤア、キュー、マルというぐあい)他の自衛艦を潜水艦とみなしての演習。1530から1630まで対水上砲戦訓練、1800から1930まで水測訓練及び照射訓練、2100から翌日0500(2)NIGHT STEAM、その間、占位保持、発光信号、電波転換、運動盤解法、編隊運転等の訓練が続く。

大変である。2時間・4時間の当直の間にこれだけの演習を消化すると睡眠は3時間程度になつてしまうという。ひどい時には12時間連続してブリッジに立つこともあると聞いて、とてもサラリーマンの常識では割の合わないことだと感心する。

訓練の間をぬつて我々は天測実習。後部の甲板に陣取つて六分儀をのぞく。練習船「日本丸」の乗船実習の時もそうだったが、本船はゆれが少ないので思つたより正確によめる。交互に数回角度を測つてグラフに記入してみると各自の誤差の程度がはつきりする。なれば誰にでも出来そうだ。睡眠不足と疲れが重つてねむくてたまらない。バースへ逃げこんで2時間ほど眠る。

(2) 夜航海のこと。海事用語 (STEAM—蒸気)

目を覚ますと夕食の時間が終りかけている。大急ぎで食堂へゆく。男ばかりの世界、しかも隊員と同じのあつかいだからボヤボヤしているとメンにもありつけなくなる。食堂ではすべてセルフサービス。四角なお盆を区切つたような平らな食器をもつて、一列に並んで順にカウンターでよそつてもらふ。御飯は好きなように自分で盛れる。欲ばつて盛つたら食べきれなくなつて残してしまつた。次からはもつと速慮して盛ろう。隊員さん達の間で大急ぎでかけこんでいても食事は楽しい。何を食べてもおいしい。人は誰でも満腹感にみたされると豊かな心になるのであろう。食事のあとでは、護衛艦生活も悪くないと想う。そして、次の食事を楽しみに、働く。

NIGHTSTEAMはいい。三日月がきれいといいたいところだが黄ばんで美しくない下弦の月。つい2日前には細くするどい感じだつたのにと驚く。いさりぶねが数十隻明か明かと灯をともして屋形船のように華やかだ。右舷に「てるづき」左舷に「いそなみ」、「たかつき」。横に並んで伊豆諸島の南方沖を西進中。夜半に八丈島沖を通過予定。ブリッジにあがる。計器類が暗い中で浮んでみえる。ブリッジの中に7・8名、外にも左、右2・3名ずつ。艦長は黙つたまま帽子を少しあみだにかぶつて窓に肘をついて前方を覗んでいる。OIOとの連絡をマイクでしている。外から報告が入る、当直士官が復誦する。誰も余分なことを口にしない。暗い中で緊張感があふれている。明日は雨になるとのこと、荒れそう。こういう船に乗つた時は大時化になつた方がおもしろくていい……とすみつこでこつそり想う。2100で消灯。残念だけどひとまずバースへもどろう。艦の針路はほぼ西南西、明日早朝は潮岬沖。日記をつけて眠る。

4月5日、0555「総員起し5分前」のマイクで目が覚めた。

本日の日課、0600総員起し、0605総員体操用意、0615甲板掃除、0630別れ、休

め、顔洗え、食卓当番手を洗え、0654配食始め、0815分隊整列(日課手入れ始め)、0855日課手入れ止め5分前、0900日課手入れ止め、休め、0910課業始め5分前、0915課業始め、1015休め、1030元の課業につけ、1125課業止め5分前1130課業止め、甲板掃除、食卓当番手を洗え、1145別れ、休め、配食始め、1250総員体操用意、1445元の課業につけ、1555課業止め5分前、1600止め、甲板掃除、食卓当番手を洗え、1615別れ、休め、配食始め、1930機関科点検、甲板掃除、1945巡検用意、1955巡検5分前、2000巡検、2200消灯、自衛隊は時間にくるさい。艦内放送で全て伝達されてその通り進行してゆく。食事までの間と思ひ甲板へあがる。早朝なのになま暖かい感じ。海が黒い緑色に変っている。黒潮であろう。艦尾の白波が朝陽の中で一段と美しい。白波の間に現れるライトブルー、これを見ただけでも来てよかつたと思う。こんなに雨へ下るのははじめて、うれしい。しまつた。日の出を見るべきだつた。明日は何とか目が覚めますように。

0700から1000まで航空隊との合同演習。「敵戦闘機発見、戦闘配置につけ」と全艦に放送が入ると急に慌しくなる。全てのハッチが閉ざされてしまうので我々も急いであがる。甲板もブリッジも邪魔になりそう。忙しそうに走りまわる隊員さん達の中で「お客さん」ののんびりしているところはなさそうだ。それでもカメラを片手に図々しくブリッジへあがって敵機を迎えた。まず双発のプロペラ機、対潜哨戒機だろう。あれなら落せる。ゆつくりと現われて頭上を2・3回かすめて飛び去つた。航空隊では我々の護衛艦を潜水艦にみたてての演習なのだろう。次に「いそなみ」攻撃、さらに最新鋭艦「たかつき」へ。何度も落されたプロペラ機が飛び去つて、しばらくしてジェット機がやつてきた。0・I・0からブリッジへ報告が入つてもどこにも見えない。しばらくして前方に点が現われると、あつという間に来てしまう。ブリッジの上のドームでとらえて、5インチ砲台へ連絡して攻撃をする仕組の全てにレーダーがものをいう現代の戦闘であるが、素人はどうしても才2次大戦の見方をしてしまうので、あのスピードではとても勝目がないように思つてしまう。何度も直撃弾を受けて、写真を撮っているうちに終つてしまつた。見ているだけの我々はのんきなものだ。

1030から反転入列運動。一列縦隊から先頭の艦が反転して最後尾へ入る。これを交互にくり返す。撮影距離内を通るからカメラのチャンス。「たかつき」「いそなみ」「てるづき」全部撮つた。

昨日について天測実習。各自六分儀をのぞいたあと、司令室で計算方法を教えてもらう。ここは、角田提督の居室として与えられている。艦長並みの扱い、海兵出身の強みだ。ベッドでの喫煙を禁じられているので、タバコのためにこの室へよく出入りしていた。皆いい位置を出している。じつとして講議を受けているとねむくてたまらない。早く食事の時間になればいいのに。船にいと単純になつてしまうのだろうか。睡眠と食事のことを考えすぎる。それでも海をみておかないとおしい気がして何度も上へあがる。艦は室戸沖から足摺岬に向つている。1500から洋上給油。給油艦「はまな」(いつの間にか来ていた)と平行に走つて、洋上で燃料、真水、食料などを補給してもらい訓練。両艦の距離は30mほど、並ぶと一層スピード感をおぼえる。今日も空水協同訓練、反転入列運動、海空訓練、洋上給油(夜間も)、水測訓練そして夜は昨日と同じ各種の訓練。忙しかつた。我々の世話をしていただいた応急長の北沢2尉が訓練の合間にみえて、いろいろ説明して下さつた。航海中はいつもこの調子で訓練の連続とのこと。これも馴れてしまえば苦にならないと聞いて、そんなものかと感心する。それでも航海はいいと言う。好きなんだと思う。海はいい。

夜、イカ漁の灯が明るい。甲板へ出ると月明りで海面が輝いている。寒くない。他の艦がキラキラする中に黒く浮んでカツコイイ。昨日の予想に反して今日も天気が良かつた。ナイトセーリングの静かな海がなつかしい。4月6日0500起床。佐多岬の灯台がみえる。もうこんなに来てしまつた。右舷側にも陸がみえる。昨夜足摺の灯がみえたとのこと、起きていればよかつた。

0700旗旋信号訓練。司令艦役を交代しながら命令したら応答したり揚げ降しに忙しい。なるほど船では旗が役に立つ。洋上給油、近接訓練のあと0945より陣形運動。横に並んだり縦になつたり、大きく周つたり、パレードのよう。縦列のまま転進するのもむつかしいと説明を聞く。ブリツジへゆくと、艦長に叱られて皆が必死だ。前や後の艦の距離をいつも測つて報告する。

「たかつき300」、「たかつき290」、「いそなみ転進はじめ」、「いそなみ転進」、「コースに入る」。何でもないようにみえることが実は大変なんだと分る。戦時中、輸送船団が縦列で航海していて、一夜空けたら後に船がなかつたという話も聞いた。島々の間をぬつて呉へ向う。寒くなつてきた。漁船が多くなつて気になる。昨日からブリツジの上のドームに入つていることが多くなつた。眺めがいいし寒くない。クダゴ水道通峡。ここまでヨットで来たら最高だ、と話しに花が咲く。3日間天候に恵まれて実にいい航海だつた。とても短かつたように思える。次

は沖縄へ行きたい、小笠原レースがいい、暖かいドームの中で話しはつきない。

江田島がみえてきた。予定より早く1300入港。自衛艦がいつばい入っている。日本中の護衛艦、駆潜艇、潜水艦が呉へ集結して、これから大合同演習がはじまる。そのための航海演習に参加したわけである。乗組員全員制服に着がえて上陸を待つ。我々も記念撮影のあと解散。明日からまた勤めがはじまる。

高宮艦長をはじめ親切にして下さった「しきなみ」の隊員の皆さん、「いそなみ」の田尻艦長ほかの皆さん、いろいろありがとうございました。

2 (a) 伊勢湾レース成績

4月7日 鬼崎～伊勢湾灯標(A・C)～白子(A・C)～鬼崎30哩のコースで行なわれ入賞は次のとおりでした。

新鋭PETIT PRINCEの今後の活躍を期待させる一戦でした。

1位 NAVYBLUE II 常滑市長杯 ファーストホーム杯

2位 PETITPRINCE

3位 あかちやん

(b) 熊野レース成績

4月28日、29日鬼崎～浜島50哩のコースで行なわれ入賞は次のとおりでした。

1位 QUERIDA

1位 EPICUREAN

3位 NAVYBLUE II

なお、QUERIDA、EPICUREANがともに1位になつているのはEPICUREANのレーティングが正式に決定していなかつたため仮のレーティングをもつて計算したところ修正後でわずか4秒の差をもつてQUERIDAが1位となつたがその後EPICUREANより計算に誤りありとの強い異議の申し立てがあり委員会にはかつた結果今回限りQUERIDA EPICUREANを同着としたものです。なお、本件については今後二度とこのような醜態のおこらぬよう、関係幹部委員は強く自戒謹慎の意を表しております。

うずしおは的矢湾口にて、サイドステーのトラブルのため棄権しました。

3. 鬼崎ヨットハーバー協議会創立5周年。鬼崎ヨットハーバー協議会が発足後5年目を迎えて5

月12日鬼崎を中心として各種の催しがありました。

NORCは5周年記念レースへの参加あるいは常滑体育館における写真展記念パンフレットの作成等に積極的に協力しました。

荒天下の5周年記念レースは、NAVY BLUE IIの独走に終り、同艇が記念トロフィーを獲得しました。

4. 東海支部連絡事項

此序大々

(a) NORC東海支部主催第6回海技教室。

第6回NORC海技教室が5月19日東海銀行主税町クラブに於て開催された。

当日は午前10時より午後4時迄気象協会島川氏の天気図の作り方見方午後5時より午後8時迄新進のヨットデザイナー武市俊氏のセールチューニング及船型についての講話がありました。

NORC会員約15名一般10名計25名の参加者があり熱心に聴講し盛会裡に終了しました。

(b) 支部総務委員会

5月16日市内喜多八に於て総務委員が開かれました。

当日の議題は太平洋単独横断レースについておよび熊野レースの処置でした。

(c) 支部安全委員より

A) 本年度安全検査を受け合格した艇は次のとおりです。

198 華 濃

225 EPICUREAN

206 うずしお

227 NAVY BLUE II

214 ALBATROSS

231 タレット

218 あかちやん

232 PETIT PRINCE

222 LUNA III

B) また次の艇は検査の申込がありました但未済又は合格保留のものです。

212 伊 勢

234 よしこ

(a) 支部計測委員会より

A) 現在までに実艇計測を終えた艇でレーティングの出た艇は次のとおりです。

206 うずしお 217 TURTLE
 209 HOMINIS DIGNITATI II 222 LUNA III
 210 QUERIDA 225 EPICUREAN
 212 伊勢 227 NAVY BLUE II
 216 CHITA II

B) 書類不備のため計算の出ている艇は次の通りです。(早く委員宛連絡して下さい)

214 ALBATROSS 232 PETIT PRINCE
 218 あかちやん

(e) 6月中旬以降8月迄のスケジュールについて6月中旬以降8月迄の東海支部関係のスケジュールは次のとおりです。

7月10日(水)鳥羽レース(鬼崎フリート)申込締切

14日(日)才三回三河湾ポイントレース(三河湾フリート) 10.00スタート

20日(土)鳥羽レース(鬼崎フリート) 21日 0.00スタート

26日(金)鳥羽パールレース

8月10日(土)三河湾レース前夜祭(支部年度前半表彰式例会) 蒲郡ヨットハーバー 18.00

11日(日)三河湾レース(三河湾フリート) 10.00

V. 京都支部

1. レース報告(沖ノ島レース)

流字大きく

スタート 5月12日 00:20(21漕)

艇名	オーナー	艇長	T・C・F	到着時間	所要時間	修正時間	順位	得点
しぶき	中谷 修	中谷 修	660	7h 56m	7h 36m	5h 0m 37s	1	15
シーメート	岡島 収	中沢 晋	713	8 12	7 52	5 36 32	2	13
タム・タム	田村 正男	田村正男	674	9 11	8 51	5 57 53	3	12
オクタビア	京都Y・C	松本輝男		D・N・S				0

会 員 異 動

京 都 支 部

新入会員

- 会員番号 No.53 特別会員 玉 舎 輝 彦
京都市上京区塔ノ段昆沙門町 (231-4652)
- No.52 普通会員 原 田 学
京都市中京区河原町四条上ル ()
- No.54 普通会員 藤 井 浩
京都市中京区御所の内町44嶺尾方 (821-4776)
- No.55 普通会員 勝 目 紘
京都市伏見区向島中ノ町800 (601-3163)
- No.56 普通会員 田 原 武 雄
神戸市兵庫区会下山町3-24 (52-0548)
- No.57 普通会員 田 幡 英 雄
京都市左京区下鴨岸本町54吉岡方 (791-4851)

新登録艇

No.715 青 葉(ワカサ・フリート) 狭 山 信 敦

No.716 ジョーカー(ビワコ・フリート) 玉 舎 輝 彦

狭山氏は愛艇ハイ・ハイを手離され、青葉(ドルフィン型)で日本海で活躍されます。
ジョーカーは気の合つた若い医師5人で持たれ、ビワコ内だけでなく太平洋沿岸へも今夏クルージングに出かける様子です。

建造中 山添君はノアを手離し、現在鎌倉でF・R・P製ボートを建造中で6月中旬進水の予定

退 会 会員番号 No.35 浜 中 靖 司

No.40 八 田 嘉 郎

No.50 大 川 美 栄 子

休 会 No.51 福 村 誠 一 郎

福村君は来る6月下旬豪州シドニーへ向け出発、彼地でヨットの造船を勉強するそうです。

VI 西内海支部

1. 1968年奥村杯レース報告 *浪客大丸*

本年度奥村杯レースは4月14日(日)宮島包ヶ浦スタート、大小弁天島安渡島灯台、絵の島包ヶ浦ゴール(時計廻り)約20kmのコースでシルフィード、ユニテイー、パピヨン、マンマンデーの4艇参加して行つた。

8.30 スタート地点集結 晴 風NE 1~2m

9.00 時報と同時にスタート

9.30 デッドカームとなり潮流のため各艇約100m逆もどり

11.15 風SE 3m

11.30 各艇次々スピンを揚げる マンマンデーはスピンを持たず、ユニテイーはコースを真北にとり他艇を引き離す。

12.30 ユニテイトップ500mおぐれてシルフィード。更に100mおぐれてマンマンデー パピヨンが続いた。

前半のペロンコで各艇バテ気味だつたが、後半4~6mの風に恵まれて快走した。

14.00 前後に各艇フィニッシュその結果は次の通り

No.	艇名	TCF	フィニッシュ	先着順位	所要時間	修正時間
70	シルフィード	0.714	14:00	2	5h:00m	3h:34m
87	ユニテイー	0.697	13:55	1	4h:55m	3h:25m
85	パピヨン	0.697	14:16	4	5h:16m	3h:46m
803	マンマンデー	0.600	14:07	3	5h:07m	3h:04m

優勝 マンマンデー、 2位ユニテイー 3位シルフィード 4位パピヨン
レース終了後直ちに賞品授与を行つた。

VII 会員及び登録艇

本文紙内面 2

1. 会員及び登録艇の現状 *浪字大まく*

4 3. 6. 1 現在

	特別会員	普通会員	候補生	T O T A L	登録艇数
関東支部	1 2 6	4 1 5	5 4	5 9 5	1 2 5
内海支部	3 7	6 5	2 9	1 3 1	3 4
東海支部	2 7	8 5	2	1 1 4	2 7
京都支部	1 7	3 1	6	5 4	1 7
西内海支部	1 0	2 5	4	3 9	9
T O T A L	2 1 7	6 2 1	9 5	9 3 3	2 1 2

2. 会員の異動

法字大まぐ

(a) 新入会員

関東支部

1541

会員 No.	氏名	住所 (TEL)	勤務先 (TEL)	フリート	所属艇
	(特別会員)				
68-915	山崎 至郎	東京都文京区関口2-6-10 (941)2053	SB食品(株) (668)0551	油壺	(620) BAY LEAF
68-934	渋谷 晃	神奈川県鎌倉市岩瀬456 SSK社宅A206	佐世保重工機動力課	横浜	(623) BAMFORD
68-939	松田 悠八	東京都世田谷区玉川等々力1-15河西方	学習研究社女学生コース編集部	油壺	(624) DATCHIKANII
68-950	三浦 継夫	東京都杉並区高円寺南3-55-16 (311)8771	国立才二病院(411)0111	〃	(373) EMERADA
68-954	延 滋男	東京都杉並区西田町1-514(392)2741	国際工機(株)(501)3105	〃	AIOLA II
	(普通会員)				
68-917	鈴木 駿一郎	東京都杉並区高円寺南1-16-21(311)0036	朝日生命保険(株)(342)3111	小網代	飛車角II
68-919	山本 政喜	東京都三鷹市井ノ頭2-18-13	日本交通公社調査部 (211)3211 内573	〃	天 城
68-920	林 成光	東京都港区赤坂2-14-1(583)4912(昼) (583)4078(夜)	はやし(582)4078	油壺	SHARKX
68-921	石井 恒良	東京都目黒区目黒2-10-7 青山荘	立教大学(在学)	〃	TRUTH
68-922	小倉 明	東京都新宿区若松町71(351)9196	国際商科大学(在学)	〃	〃
68-923	森 繁 建	東京都世田谷区船橋町235(420)6311	佐島マリーナ(株) (0468)56-0141~3	佐島	ふじやま丸
68-924	松田 紀雄	東京都目黒区下目黒5-26-7(714)4284		油壺	EMERADA
68-925	渡辺 卓保	東京都足立区足立3-3-14	電々公社 (212)9788	〃	〃
68-926	高城 昌彦	神奈川県横浜市戸塚区平戸町910-2-6	〃 (211)9018	〃	〃
68-927	松本 かづ子	東京都千代田区九段北4-3-32	東京デザイナー学院(在学)	〃	月光II
68-933	反田 和利	神奈川県横浜市戸塚区矢部矢部公団26-405 (045)881-4894	反田産業汽船商事部	江の島	雲 仙
68-935	伊藤 義信	千葉県流山市向小金123		油壺	ダボハゼII
68-936	川島 克彦	東京都江東区東砂5-15-6	石塚自動車	〃	チャイカ
68-937	児玉 登	東京都世田谷区下馬2-10 郵船フラット133号 (414)8250	日本郵船東京支店カリブ南米課 (212)4211	江の島	CYGNUS
68-938	森下 幸治	神奈川県横浜市金沢区六浦3711 (045)701-5061	森下材木店	諸磯	NOAH-XII
68-940	宮森 和美	東京都台東区上野7-9-14(843)2761	宮森商事(株)(843)2761	葉山	龍王丸
68-941	古川 保夫	東京都品川区大井5-16-16(771)5434	(株)東京金銀糸製作所 (474)3570	〃	〃
68-943	大貫 雅裕	東京都江戸川区東小松川2-4382岸直方 (654)3908	(株)マルザン	小網代	飛車角II
68-944	尾崎 功	神奈川県横浜市南北区日吉本町1725伊藤方	安展工業才二部技術課(0424) (0424)83-1191	〃	〃
68-945	松永 浩二	神奈川県横須賀市衣笠栄町2-48 (0468)51-2416	山一証券(株)債券引受部 (668)1101	江の島	潮
68-946	島氏 英雄	東京都保谷市下保谷ひばりヶ丘4-1-29 住友商事保谷寮	住友商事(株)審査2課(294)4111	油壺	AOLELEII
68-947	北沢 公康	千葉県千葉市磯町1-11-6平安荘内	千葉大学工学部(在学)	小網代	くろしおII
68-948	松井 誠一	東京都杉並区成宗1-7 白山荘 (391)7980	ノースアメリカ保険(株)新種部 (273)1071	油壺	バイオニアII
68-949	高柳 則男	東京都港区南青山4-10-7(401)5440	三井石油化学工業(株)計数室 (501)3836	小網代	SALMONI
68-951	浮田 利明	神奈川県川崎市小田2-14-15(32)4076	東京トヨベツ 配車課(045)531-1251	油壺	EMERADA
68-952	阿部 秀明	神奈川県横須賀市追浜東町1-74	味の素(株)計測課 川崎 24-1111	〃	NOA-NOA
68-953	佐宗 初美	〃 〃 (0468)61-5416	味の素(株)中研食品研究部 (内線 844)	〃	〃
	(候補生)				
68-916	柏村 比良久	東京都杉並区永福町21(321)7048	豊多摩高校在学	〃	JUNE BRIDE
68-918	重田 恵子	東京都世田谷区野沢1-29-23(421)8374	女子美術短大(在学)	〃	LOTUS
68-928	斉木 貴郎	神奈川県横浜市金沢区富岡町1638(701)9642		横浜	智 美
68-929	島 敬悟	東京都世田谷区東玉川1-2-5(720)8111		〃	〃

会 員 No.	氏 名	住 所 (T E L)	勤 務 先 (T E L)	フ リ ー ト	所 属 艇
68-930	中 川 幸 男	東京都大田区北千束2-14-11(720)1056		横 浜	智 美
68-931	館 沢 英 市	東京都目黒区原町2-20-14(713)6824	法政大学(在学)	◇	◇
68-932	青 木 省 吾	神奈川県茅ヶ崎市柳島656 (82)-1786	専修大学(在学)	◇	◇
68-942	斎 藤 宜 丈 (京都支部)	東京都世田谷区北沢1-14-13(460)4157	中央大学(在学)	小網代	NADJA II
52	原 田 学	京都市中京区河原町四条上ル東入 (221)0674	築 地 館 (211)7718		
53	◎玉舎 輝 彦	京都市上京区塔ノ段毘沙門町(231)4652	京都府立医科大学附属病院	ビヲコ	(716)JOKER
54	藤 井 浩	京都市中京区御所の内町44嶺尾方(821)4766	◇ ◇	◇	◇
55	勝 目 紘	京都市伏見区向島中の町800(601)3163	◇ ◇	◇	◇
56	田 原 武 雄	神戸市兵庫区念下山町3-24(52)0548	◇ ◇	◇	◇
57	田 幡 英 雄 (西内海支部)	京都市左京区下鴨岸本町54吉岡方(791)4851	◇ ◇	◇	◇
37	竹 内 邦 博	広島県安芸郡階越町792	広島市立工業高校		シルフィード
38	長 坂 誠 虔	広島県佐伯郡五日市町藤垂園アパート	広島工大附属高校		◇
39	山 本 邦 男	広島市旭町136-26	山本電気保安事務所		慢々の
40	橋 本 洵	広島市猫尾町4-14	中国放送株		ブルースカイ
41	西 村 昭 (東海支部)	広島県楠町1	広島市役所		
106	△富久 正	守山区小幡才4NHK寮	名古屋学院(在学)	鬼 崎	アルバトロス
107	△渡辺 貞人	名古屋市東区芳野町1~20 (941)8902	名古屋学院高校(在学)	◇	◇
108	△亀山 武司	◇ 緑区鳴海町字薬師山47	◇	◇	◇
110	梶 田 幸 雄	◇ 昭和区広路本町5-33(851)9683	岡谷鋼機株式会社機器部機材課 (582)6211	◇	ささかぜII
112	小 林 克 昌	半田市住吉町8-33半田(0569)21-1780	トヨタブリカ中京株半田営業所 (21)7155		
113	大 橋 勝 一	◇ 港町1-37 (21)2011			
114	立 花 正 興	◇ 中町2-59 0569(21)6163	愛知県ガンセンター婦人科 (052)781-6111	衣 浦	EPI CUREAN
115	木 原 衛	知多郡美浜町河和 河和6194	東海鋼材株営業部営業課 野間(200 201)	◇	◇

(b) 住所変更

会員 No.	氏名	住所
関東支部		
	(特別会員)	
5599	反田 邦治	東京都世田谷区代田4-27-5
5554	向井 七男也	神奈川県横浜市神奈川区六角橋町4-17-34
6737	森 茂	東京都大田区中央3-2-16 青葉マンション
3416	寺田 保之助	神奈川県茅ヶ崎市甘沼317
4434	落合 公平	東京都調布市東つつじ丘3-9-1
5541	金川 一之	神奈川県大和市福田5497
	(普通会員)	
5552	斎藤 鑑三	静岡県静岡市追手町7-2 朝日新聞社静岡支局
1206	中山 遠世	東京都品川区東大井4-10-4 住友銀行啓明寮
5580	永江 三良	神奈川県茅ヶ崎市鶴ヶ台16-2-502
7870	田村 勝吾	東京都荒川区西尾久町2-1-5
6101	鈴木 利久	神奈川県逗子市沼間2-23-24
2262	小泉 信一	愛知県名古屋市長区鳴子団地27-202
6666	山本 鴻之助	愛知県海部郡彌富町大和田魚利浦字東前新田34
7744	縄井 松男	東京都小平市小川東町2800-1 B SアパートA6-207
6654	青山 恒昌	東京都豊島区南池袋3-21-11 白樺荘内
4464	吉谷 瑞男	静岡県清水市三保羽衣脇1554-1 川口方
4471	藤下 周一	東京都西多摩郡秋多町野辺字下原805~10
6665	服部 文男	東京都港区赤坂4-2-25
4460	国松 磐	神奈川県鎌倉市長谷46
7810	小林 敏男	千葉県千葉市新宿町2-6 川正ビル5階
4451	根本 功男	神奈川県横浜市磯子区磯子1-2-10号 ぽっぽック日立横浜工場ボイラー設置課
1218	小谷 昌	神奈川県川崎市三田3-2-2-304

会 員 №	氏 名	住 所
68-879	横 田 正 之	東京都台東区浅草橋 2-29
7854	田 中 克 敏	静岡県沼津市大岡 2130-1 仙岳茅5 アパート 409号
68-898	横 山 広 章 (候補生)	東京都新宿区上落合 2-630
7875	永 田 耕太郎	東京都品川区豊町 6-18-5 板橋方
6733	大 鳥 富士雄 (内海支部)	東京都港区飯倉片町 6
59	野 間 誠 三	西宮市甲子園 7-6-10
60	奥 井 彰	豊中市千里西町 A 16棟 308号
18	稲 川 武志郎	神戸市須磨区東町 2-1-25
2	浅 野 豊 子	次田市山手町 1-22-19
37	松 本 哲	西宮市甲子園九番町 15-5-523
73	◎ 神 村 正 弘	神戸市垂水区大町 2-1-18
83	勝 昌 義	神戸市垂水区東垂水町字高丸 762-255
36	◎ 前 田 豊 一	神戸市須磨区月見山町 2-3-5
31	◎ 井 出 昂	大阪府豊中市東豊中町 3-87

()

(C) 会員間の異動

支 部 名	会 員 番 号	氏 名	所 属 艇
		(特別会員より普通会員へ)	
関 東	7849	三 輪 勝 久	神 州
◇	6728	EDWIN・CENSLEY	SEA WITCH
◇	2339	名 当 英 臣	は や と り
◇	6606	ROBERT L・COOPER	TONGA
◇	6631	李 彩 銘	一 乗
内 海	0	津 田 郁 太 郎	暖 流 II

支 部 名	会 員 番 号	氏 名	所 属 艇
内 海	1 2 5	野 本 謙 作	春 一 番
西 内 海	3 0	宮 西 勝 秋	ア ン ド ロ メ ダ Ⅱ
(普 通 会 員 よ り 特 別 会 員 へ)			
関 東	1 0 7	河 瀬 直 春	神 州
◇	3 3 7 1	草 間 信 二	は や と り
◇	6 6 3 2	PHILIP A. DRIPS	T O N G A
◇	2 2 6 8	津 野 守 邦	智 美
◇	6 6 5 4	青 山 恒 昌	一 乗
内 海	4 2	蔭 山 陽 三	ス タ ー ダ ス ト
西 内 海	8	水 岡 信 彦	
◇	3 1	菅 美 昭	ブ ル ー ス カ イ
(候 補 生 よ り 普 通 会 員 へ)			
関 東	6 6 3 4	飯 島 要 治	さ が み Ⅱ
内 海	5 6	森 下 義 之	
◇	6 6	伊 藤 喜 博	
◇	6 9	今 井 勉	
西 内 海	1 9	頼 田 昭	シ ル フ イ ー ド

(a) 会 員 名 簿 記 載 洩 れ

会 員 NO.	氏 名	住 所 (T E L)	勤 務 先 (T E L)	フ リ ー ト	所 属 艇
	普通会員				
6736	神保利夫	神奈川県中郡二宮町二宮 1030 二宮 (7)1797	エスビー食品㈱ (668)0551	油 壺	BAY LEAF
7792	石川 烈	東京都世田谷区祖師谷2-599 (482)7017	東京医科歯科大学大学院 (在学) (813)6111 内 288	油 壺	JUNE BRIDE
	特別会員				
6698	DR. D. MOWRY	神奈川県横浜市中区山手町 20 (045)68-5516	モンサント・ジャパン・リミテッド (212)8781	葉 山	(387) SHMOO -SAN

VIII 新登録艇の紹介

支部	セー ル No.	艇 名	RIG	クラス	L O A × L W L × B × d	オーナー	フルート
関東	606	智 美	S	III	10900×7500×3,120×1,790	津野守邦	横 浜
◇	613	くろしおII	S	III	10,200×7,400×2,850×1,770	中島伸之	小網代
◇	621	T A I Y O	S	IV	7,490×5,900×2,440×1,400	飯田勘一	油 壺
◇	622	雲 仙	S	III	33' 0" × 24' 2" × 9' 8" × 5' 6"	反田邦治	江の島
◇	623	B A M F O R D	S	V	585×5.20×2.00×1.12	渋谷 晃	横 浜
◇	624	D A T C H I K A N II	S	V	6300×5,480×2,020×1,500	松田悠八	油 壺
◇	625	A I O L A II	S	III	26' × 20' × 7' 6" × 4' 9"	延 滋男	◇
東海	233	し や ち	S			柴田俊彦	鬼 崎
◇	234	よ し こ	S			成田郡司	◇
◇	236	B I R U S H A N A	S			山田雅和	◇
京都	715	青 葉				狭山信敦	ワ カサ
◇	716	ジ ョ ー カ ー				玉舎輝彦	ビ ワコ

編 集 後 記

この3ヶ月はレース・シーズンであるばかりでなく太平洋シングルハンド横断レース案の決定、油壺ヨット繋留制限問題、バスファインダー号の遭難、◇神州◇盗難事件と当協会の内外ともまことに騒然たるものがありました。

楽しみにしておりました西伊豆三津浜ランデブーは無期延期になってしまいました。来る8月3日、4日にはNORC夏祭りが華々しく開催され、盛り沢山の催しが計画されつつあります。NORCも前身であるC・C・J・発足以来丁度20周年になりますので、お祝いも兼ねて集まつて大いに楽しもうではありませんか。

さてニュース原稿の締切日までの出が悪く、発行も遅れがちになりますので、締切日の厳守に付きまして重ねてご協力のほどお願いします。

なお会員の異動、登録艇の現状もそれまでには是非ともお知らせ下さい。

次の締切日は9月15日です。よろしく。

(高村記)